



LOCAL 学生部

【主たる開催地域】北海道 【主催者】一般社団法人 LOCAL 学生部
 【連絡先】 @onodes/onodes@local.or.jp/info@local.or.jp

【勉強会の目的／背景】

現在さまざまな地域で多様な IT 勉強会が開催されていますが、その中で学生の参加者、コミュニティの割合は非常に少ないのではないのでしょうか。そこで「学生に勉強会の存在を広報し、参加しやすい勉強会をする学生の学生によるコミュニティ」を「無いなら作ろう」ということで 2009 年 6 月に LOCAL 学生部が作られました。

ここで一般社団法人 LOCAL（以下 LOCAL）についてご説明させていただきます。LOCAL は、オープンソースソフトウェアおよび周辺技術や知識の普及啓蒙を目指し、北海道ならびに全国的な活動を行ってきた地域の IT 技術者、IT 技術コミュニティが集まり、所属にとらわれない横断的な人的交流の場の形成を目的として、2009 年 4 月に発足した団体です。

LOCAL 学生部は LOCAL 内の学生コミュニティとして活動しています。

【コミュニティの構成】

LOCAL 学生部は主に北海道内の学生勉強会（下記参照）のスタッフおよび参加者で構成されています。年齢も大学 2 年生から大学院生まで、学生の在籍校も 7 校となっています。

1. mintech（北見工業大学）
2. SAMIT（室蘭工業大学）
3. hakodate.*（公立はこだて未来大学，函館工業高等専門学校）
4. hiuit（北海道情報大学）

【これまでの活動実績】

LOCAL 学生部は、道内の学生勉強会を集めた「LOCAL 学生部総大会」を行っています。総大会 2009 では札幌市にて「IRCBot をつくろう」を開催し、2010 年には洞爺湖町にて「Twitter クローンをつくろう」を合宿形式で開催しました。このほか学生部のメンバが各地域にて独自の勉強会を開催しています。内容は OS，プログラミン



学生部総大会の風景の図

グが主です。関連して Web クローラー，並列処理，コードゴルフなどもあります。各々の大学での開催となり、勉強会終了後は懇親会にて遠方から来たメンバとの交流を深めています。

【課題と今後の目標】

学生が運営，管理してる以上卒業による人員の入れ替わりは避けられません。

今後の目標としましては、従来通り「学生に勉強会の存在を広報し，参加しやすい勉強会をする学生の学生によるコミュニティ」を目指しつつ，コミュニティ内でのノウハウの継承について考えていきたいと考えています。

【参加方法とメッセージ】

LOCAL 学生部および LOCAL に興味を持たれた方は，下記をご参照ください。

LOCAL 学生部 メーリングリスト：

<https://groups.google.com/group/local-students>

一般社団法人 LOCAL : <http://www.local.or.jp/>

学生コミュニティを一緒に盛り上げていきましょう。



Test Engineer's Forum 北海道 (略称：TEF 道(てふどう))

【主たる開催地域】北海道 【主催者(お世話係)】(株)HBA 安達賢二
【連絡先】tef-do-ml-owner@yahoogroups.jp (運営担当：上田・安達)

【勉強会の目的／背景】

TEF 道は 2006 年にソフトウェアテスト技術者交流会 (Testing Engineer's Forum：TEF^{☆1}) に参画している札幌界隈のメンバが中心となり発足しました。当時札幌界隈では、ソフトウェア関連のイベントがほとんどありませんでした。そこでソフトウェアテストシンポジウム (JaSST：http://www.jasst.jp) を札幌に誘致 (JaSST 札幌 (現在の JaSST 北海道)) しつつ、普段はその実行委員会メンバが中心となって勉強会を運営することにしたのが発足の経緯です。

【勉強会の定期的活動】

通常は平日の定時以降 (19 時～約 2 時間程度)、また集中議論が必要な場合には土日に小合宿形式で開催しています。そして勉強会終了後や取り組みの節目にメンバでワイワイ飲み(騒ぎ)に行きつつ、そのノリで次に取り組むテーマなどを決める…ようなワイガヤ運営となっています。

当活動に理解のある企業様の会議室提供により、参加費は無料です。現在登録メンバは 12 名で平均年齢は 34 歳です。毎回の勉強会に 4～8 名程度の参加があります。主な実施内容と開催実績は以下の通りです。

①メンバが構築した仕様書等をベースにテストプロセスの実践・研究を行う。

2010.3～2010.9

ペルソナ・シナリオ活用テストプロセス実践(17 回)

2009.10～2010.1

スーパカレー方式によるテストプロセス実践(5 回)

2009.7～2009.9

HAYST 法をベースとしたテストプロセス実践(7 回)

HAYST 法 <http://hayst.com/default.aspx>

2008.12～2009.6

マインドマップ等によるテストプロセス実践(9 回)

②テストの有識者をゲストに迎えてワークショップやセミナーを実施する。

2008.5～現在

有識者によるテストワークショップ・セミナー (4 回)

③ ISTQB テスト技術者資格制度シラバスや関連書籍等

を活用して基礎を固める。

2006.11～現在

JSTQB テスト技術者向け勉強会(4 サイクル/20 回)

JSTQB テスト技術者資格認定 <http://jstqb.jp/>

④他コミュニティとの交流

2009.10.3

WACATE (<http://wacate.jp/>) との合同勉強会

⑤メンバによる各種イベントへの積極的な参加

JaSST'09 東京, '10 東京 / WACATE2009 夏・冬,

2010 夏・冬

【これまでの成果】

(1) JaSST'09 北海道 事例発表：実践テストプロセス

<http://www.jasst.jp/archives/jasst09s/pdf/S3.pdf>

(2) JaSST'10 東京 事例発表：『スーパカレー方式』によるテスト分析と設計

<http://www.jasst.jp/archives/jasst10e/pdf/A5-1.pdf>

(3) ソフトウェアテスト同人誌：Software Testing ManiaX Vol.3/Vol.4 への寄稿

(4) JSTQB テスト技術者 Foundation Level 合格者 14 名

【今後の目標】

現在、2011 年夏にソフトウェアテストのワークショップを北海道で開催する企画・準備中。また、今後も他地域コミュニティとの交流を積極的に進める予定です。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

TEF 道に参加、見学等を希望される方は、以下の連絡先にご連絡ください。

連絡先：tef-do-ml-owner@yahoogroups.jp

(担当：上田・安達)

本勉強会を通じて、さまざまな組織・地域の技術者が交流しつつ、実践的なノウハウを獲得して腕を上げ、実務で成果を上げること、その結果、ソフトウェアテストが、そして開発そのものが楽しくなることを目指しています。

☆1 <http://www.swtest.jp/wiki/index.php?swtest.jp/wiki/forum>



東北情報セキュリティ勉強会

【主たる開催地域】東北地域 【主催者】東北情報セキュリティ勉強会有志 【連絡先】@ripjyr/ripjyr@gmail.com

【勉強会の目的／背景】

全国で情報セキュリティ系の勉強会が増えてきていますが、東北地方での情報セキュリティに特化した勉強会はありませんでした。

東北地方でも情報セキュリティに興味を持ってくれる人を1人でも増やそうという思いで東北情報セキュリティ勉強会を主催しました。

東北情報セキュリティ勉強会は、学生を支援しており、勉強会参加費無料、懇親会参加費割引など、参加者しやすい・楽しい勉強会を目指しています。

【コミュニティの構成】

東北情報セキュリティ勉強会は、名前の通り主に情報セキュリティ技術を扱っており年に4回程度開催しています。毎回40名程度の方が参加してくれています。

勉強会のテーマや講師は、参加者層や過去のアンケート結果から選定しています。

これまで、仙台、盛岡、会津若松、郡山で開催しましたが、それぞれの地域で参加者層(興味分野・業務分野)が違うため、それぞれの地域にマッチすると思われるテーマで講演いただいています。

【これまでの活動実績】

東北情報セキュリティ勉強会は、過去6回開催しています。

これまでの開催は、以下の通りです。

第1回東北情報セキュリティ勉強会	仙台	開発者のための勉強会
第2回東北情報セキュリティ勉強会	仙台	セキュア Web アプリ開発と検査に関する勉強会
第3回東北情報セキュリティ勉強会	盛岡	マルウェア解析、モバイルセキュリティ、プログラミング的な勉強会
第4回東北情報セキュリティ勉強会 + Aizu.LT 合同勉強会	会津若松	スマートフォンに関する勉強会
エフスタ! & 東北情報セキュリティ勉強会合同勉強会	郡山	セキュア Web アプリ開発に関する勉強会
第5回東北情報セキュリティ勉強会	仙台	NoSQL に関する開発者のための勉強会

東北情報セキュリティ勉強会で重要なポイント、それは自己紹介とお菓子です。



勉強会参加者がどのような人で、どんなことに興味があるかを冒頭で1人30秒程度ですが自己紹介します。(これが有ると無いでお菓子タイムでの参加者同士の交流度合いが変わってきます)

また、勉強会では脳をフル活用するので、ちょっと贅沢なお菓子でブレイクしながら講師、参加者同士で交流を持つのが習わしとなっています。

【課題と今後の目標】

東北6県すべてで勉強会を開催することを目標としています。

現在は東北3県では開催しましたが、今後各地の勉強会と共同して開催していきたいと思っています。

また、勉強会の参加者が40名程度であり、もう少し多くの人(特に学生)に知ってもらい、参加してもらいたいと思っています。

【参加方法とメッセージ】

東北情報セキュリティ勉強会の詳細は、以下のページにて公開しています。

<http://tohoku-security.techtalk.jp/>

東北での勉強会を探している皆様、楽しくて勉強になる勉強会を目指していますのでぜひ参加ください!

宮城県



東北デベロッパーズコミュニティ

東北

【主たる開催地域】宮城県 【執筆者】(株)サイエンティア 小泉勝志郎(@koi_zoom1) 【連絡先】@koi_zoom1

【勉強会の目的／背景】

東北デベロッパーズコミュニティ (以下 TDC) が発足したのは 2008 年 12 月のことです。当時はまだ宮城県および東北地方に勉強会の活動が少なく、「東北が交流する『場』を作ろう!」という壮大なテーマを持って立ち上がりました。

TDC には特色の 1 つとして「何でもあり」の多様性があります。当初は Web 技術をメインとし、Ruby on Rails や Seasar2 の勉強会を行っていましたが、今では組み込み勉強会や果ては IT とは関係なさそうなドラッカーの勉強会までさまざま! この「何でもあり」感を行っているイベントを列挙していくだけでもお分かりいただけるのではないのでしょうか。

名称	概要
Seasar 勉強会 in Sendai	Java のフレームワークである Seasar の勉強会
Sendai.vim	テキストエディタ vim の勉強会
Sendai.js	JavaScript の勉強会
PHP 勉強会	初心者向けの PHP 勉強会
Scala コップの会	初心者向けの Scala 勉強会
組み込み勉強会	組み込み技術の勉強会。半田こてを使うイベントもあり
tohoku.LT	居酒屋で行うライトニングトーク大会。技術ネタ以外もあり
上流工程品質勉強会	勉強会の題材にされにくい要件定義・品質の勉強会
ドラッカー勉強会	ピーター・ドラッカーのマネジメントを学ぶ

ほかにも今後の予定として、クラウドでは Amazon Web Service の勉強会、スマートフォンでは iPhone の勉強会等が行われる予定です。

また、TDC では勉強会をしたい方を支援します。会場手配、集客等ご協力いたします。「こういう勉強会をやってみたい!」という思いのある方、ぜひ東北デベロッパーズコミュニティにお声掛けください!

【勉強会の定期的活動】

毎月何らかのイベントが行われています。後述する TDC のサイトをご覧ください。月次で行っている PHP 勉強会のようなものもあれば、突発的に開催するイベントもあります。飲みながらプレゼンを聞くだけでも楽しめる tohoku.LT (別名: 居酒屋プレゼン) は、気軽に参加できるイベントとして隔月で開催します。

【これまでの成果】

年に一度、記念カンファレンスを行っております。2011 年はクラウドをテーマにした「東北クラウド実践カンファレンス」を 2 月 11 日に開催しました。こちらは毎回 100 名規模の参加者を集めています。

東北情報セキュリティ勉強会、JAWS-UG (Japan Amazon Web Service User Group) の仙台勉強会を共催しており、他勉強会との交流も盛んです。

また、勉強会以外でも 2008 年度には MISA ((社) 宮城県情報サービス産業協会) が主催する産学協同 IT 訓練で、学生に Ruby on Rails を用いて実際のシステム開発現場の雰囲気を伝える講義を行っています。

【今後の目標】

2011 年は「東北クラウド実践カンファレンス」を皮切りに、イベントが目白押しです。他コミュニティとも積極的に連携していきます。その中で今までの受け手が教え手へ変わるような、次を育てるサイクルの確立が目標です。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

以下の URL からアクセスすることで会員登録ができます。

東北デベロッパーズコミュニティ Web サイト
<http://tohoku-dev.jp/>

勉強会への参加に会員登録は必須ではありませんが、登録することでメーリングリストのメンバになり勉強会の情報を得やすくなります。また、「勉強会を開催したい方」はメール・サイトを利用したアナウンスやイベント参加フォームの作成が行えます。

問合せは下記 Twitter アカウントまでお気軽にどうぞ。
 @koi_zoom1

「勉強会ってどんなもの?」と思う方から「こんな勉強会がしたい!」という方まで一緒に盛り上げていきましょう。



日本 Android の会 群馬支部

【主たる開催地域】群馬県 【主催者】Rabbit-U 【連絡先】@rabbitu

【勉強会の目的／背景】

他県では Android の勉強会が活発に開催されているけれども、群馬ではなかなかそういう機会がありませんでした。群馬県内でも Android の勉強会を開くことによって Android を盛り上げていきたいです。Android について各自のやりたいことをやります。

【やりたいこと】 とりあえず集まって Android についての雑談をする。

群馬では東京まで行かないとなかなか Android ユーザや技術者に会えない問題がありましたが、交流会を開くことによってより身近な Android ユーザや技術者と Android についての交流を行う。

【やりたいこと】勉強会

Android についての勉強をする。Android に関することならなんでも OK。

【やりたいこと】 Android 用の群馬用のアプリケーションを作る。

自分たちの技術力 Up を主な目的として、Android アプリケーションを開発する。

地域にも貢献したいということで群馬用のアプリケーション、名前は「群馬アプリ」。

【やりたいこと】 企業と連携して各種 Android についてのイベントを行う。

祭りを開くことによって盛り上がる。

【勉強会の定期的活動】

開催時期は、ほぼ 1 カ月に 1 回。土曜または日曜の 13:00 ~開催しています。高崎市内が多いですが、群馬県内各地で行う予定です。ミーティング & 勉強会は主に会議室で行っています。喫茶店やファミリーレストランで行うこともあります。勉強会では各自ネタを持ち寄って、発表を行っています。

【これまでの成果】

Google Code にオープンソースで群馬アプリケーションを作成中です。メンバの blog では Android に関する記事を多数掲載させていただいています。

【今後の目標】

人数が増えることによって、自然と勉強会で発表する人を増やしていきたいです。人数が増えたら今よりももっと大きい部屋を借りたいです。大きい部屋には各種設備があるので魅力的です。地域の企業や学校と協力して Android についての勉強会やイベントを行って、Android についての情報交換をしていきたいです。Android アプリの販売など各種 Android ビジネスについての勉強を行いたいです。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

日本 Android の会の Google Group と日本 Android の会 群馬支部の Google Group の両方に登録することで参加できます。

日本 Android の会 群馬支部の Web サイト

<http://sites.google.com/site/androidgroupjapangunma/>

日本 Android の会 群馬支部の Google Group

<http://groups.google.com/group/android-group-japan-gunma>

また問合せについては、下記 Twitter アカウントでお願いします。

@rabbitu @mushkjoshu

Android に興味を持たれたら、お気軽にご参加ください。内容は Android についてのことばかりになりますが、各種スマートフォンのユーザや技術者の方の参加も歓迎します。Android についてわいわい話せたら楽しいかと思えます。



CakePHP 勉強会

【主たる開催地域】 東京都 【主催者】 CakePHP ユーザ会 【連絡先】 @cakephper

【勉強会の目的／背景】

CakePHP¹⁾ は、Ruby on Rails に強く影響され、高速に Web アプリケーションを開発するために生まれたフルスタックな Web アプリケーションフレームワークです。Web 開発に必要な機能はあらかじめ組み込まれており、PHP が動く Web サーバであれば、外部ライブラリの追加インストールなしで動作させることができます。その手軽さ、扱いやすさ、出版された本の多さなどから、現在では広く普及しています。

CakePHP 勉強会は、開発ノウハウの共有や、CakePHP の普及、発展に寄与する目的で開催されています。

本勉強会では「交流」が重要なテーマになっています。異なる会社の技術者が CakePHP という共通項を通して交流し、助け合い、競い合いながら、互いの技術レベルを高めていき、その成果を CakePHP 本体にフィードバックしていく、そういったサイクルを作っています。

【勉強会の定期的活動】

CakePHP 勉強会は主に東京で年 1 回、現在まで合計 5 回開催されています。参加者数は 50 人以上集まり、募集開始日から 1 日で定員に達する人気勉強会になりました。東京以外にも、大阪や福岡で何度か開催されています。

全国に数多くいる CakePHP ユーザのために、最近では Ustream を利用して勉強会の様子を配信しています。第 5 回 CakePHP 勉強会 @ 東京²⁾ では、有志によって北海道、名古屋、福岡にサテライトスペースができ、各地で Ustream の映像を視聴しながら、テレビ電話 (Skype) を利用して東京会場との交流を行いました。福岡からは Skype のデスクトップ共有機能を利用して遠隔プレゼンテーションを行い、距離を越えた新しい形の勉強会ができました。

【カンファレンス】

CakePHP 勉強会から発展したカンファレンスも毎年開催しています。2008 年に「CakePHP カンファレンス」³⁾、2009 年に「CakePHP 祭り」⁴⁾、2010 年に「PHP 祭り」⁵⁾

という流れで、規模の拡大、交流の促進、内容の充実を図っています。

これらのカンファレンスでは、通常の講演に加えて、ワークショップ形式の講義、夜通し開発するハッカソン (ハックマラソン) なども開催しました。

カンファレンスでは、海外にいる CakePHP コアプログラムの開発者の招待講演もあり、カンファレンスや懇親会を通じて海外の開発者と日本の CakePHP コミュニティを強く結びつける役割をしています。

【今後の目標】

今後も定期的に CakePHP 勉強会やカンファレンスを開催し、開発者同士の交流を深めていきたいと思っております。勉強会では学生の参加者が少ないため、今後は学生の方にも気軽に参加していただける仕組みを用意したいと思っています。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

本勉強会は、公式な Web サイトを持っておりません。<http://events.php.gr.jp/> や <http://atnd.org/> を利用し都度、告知と参加登録を行っています。

最新の勉強会情報や CakePHP に関する情報は、下記にある筆者の Twitter アカウントにて発信しておりますので、興味がある方はフォローをお願いします。

@cakephper

CakePHP は手軽に開発・利用できるため、学会のサイト構築や研究用システム構築などの用途に適しています。少しでも興味のある方は、ぜひ本勉強会に参加していただき、CakePHP コミュニティの素晴らしさを体験してください！

参考文献

- 1) <http://cakephp.org/>
- 2) <http://gihyo.jp/news/report/2010/06/0401>
- 3) <http://conference.cakephp.jp/>
- 4) <http://matsuri.cakephp.jp/>
- 5) <http://2010.phpmatsuri.net/>



ClubDB2

【主たる開催地域】 東京(渋谷) 【主催者】 日本アイ・ビー・エム(株) 野間愛一郎
 【連絡先】 anoma@jp.ibm.com @clubdb2, #clubdb2 Web: <http://ibm.co/edvDc3>

【勉強会の目的/背景】

本コミュニティでは、IBM DB2 のユーザに対し、スキルアップや他の技術者とコミュニケーションするための場を提供しています。

データベース・スキルを身につけようとする際、書籍やインターネット等での情報収集も重要ですが、上級スキルを持つ身近な技術者からのスキル・トランスファーや、経験に基づくベストプラクティスの共有は非常に重要で、なかなか公開されていないものです。データベース技術者のスキルの範囲は担当製品に依存することが多く、自身が持つ知識やスキルを相対的に見ることのできる機会も少ないと思われます。現場でそのような状況の技術者を見てきた IBM 社内の有志3名とコミュニティ立ち上げに賛同する社内メンバの協力を得て、2006年6月より、月2回のペースで勉強会を継続しています。

ClubDB2 は、有志による完全なボランティアでのコミュニティ活動を実践しています。

これにより、非常に明るく、フランクな雰囲気作りと、DB2 という製品にとらわれず、他のデータベースやそれにかかわるテクノロジーも ClubDB2 にて積極的に勉強しようという、純粋な技術者のコミュニティができています。

また、講師も一人の技術者として参加し、講師/受講者の関係ではなく、技術者同士ディスカッションしながら参加者の互いの情報を共有しながら勉強会を進めていくようなスタイルを心がけています。

「とにかく楽しく」金曜の夜にわざわざ自分の時間を割いて参加してくださる勉強会ですから、「行って楽しかった。また行きたい」と言われるコミュニティを目指して活動しています。

【勉強会の定期的活動】

開催日時：隔週金曜日 19:00 ~ 21:00

場所：渋谷駅近辺(渋谷マークシティ内)、大坂(不定期)

USTREAM : <http://www.ustream.tv/channel/clubdb2>

内容：DB2 を主としたデータベース技術およびデータベース周辺技術を中心に開催しています。最近では、モデリングや開発言語など参加者からのリクエストを積極的に聞き入れ、さまざまな内容を展開しています。勉強会終了後は懇親会を開いており、そこでも技術的な話題

で盛り上がっています。また、年末にはパーティ形式で軽食をとりながら、参加メンバ全員で盛り上げるイベントも開催しています。

【これまでの成果】

これまで、5年間で117回(2010年末時点)の勉強会を実施しました。実施した勉強会の詳細については、以下の URL を参照ください。

<http://ibm.co/e4WnkY>

最近では MySQL ユーザー会(MyNA)との合同イベントや、慶應義塾大学の遠山研究室で研究・開発されている SuperSQL (<http://ssql.db.ics.keio.ac.jp/>) についての勉強会、「達人に学ぶ SQL 徹底指南書」著者のミックさんをゲスト講師に招いた勉強会、さらに過去には Ruby on Rails 入門など、DB2 にとらわれず、コンテンツの幅を広げています。参加者はスキルアップだけでなく、違う立場の方と話す機会も多くなり、参加者同士、積極的にコミュニケーションをとり、情報交換を行っています。

【今後の目標】

今後も月2回のペースで勉強会を継続します。本年度は「データベース友の会」(<http://dbtk.main.jp/>)とコラボレーションして勉強会を実施する企画も考えています。また、4~6月には初心者向けに、データベース技術、運用、SQL などの基礎の勉強会を実施予定です。本年度の予定の詳細は以下の URL を参照ください。

<http://ibm.co/dxvWTY>

【参加方法と私たちからのメッセージ】

“参考になった”と言われるより、“楽しかった”と言われる勉強会を意識して活動しています。参加者が気軽に話せる雰囲気作りにも気を付けていますので、DB2 にかかわっていない方も気軽にご参加ください。

参加申込についてはこちら (<http://ibm.co/edvDc3>) の URL から申込可能です。また、Twitter (@clubdb2) の問合せも受け付けています。ツイートにハッシュタグ(#clubdb2)を付けてつぶやいてくださっても結構です。金曜夜に私たちと楽しくデータベースを学びましょう!



DevLOVE

【主たる開催地域】東京都 【主催者】@papanda 【連絡先】@devcchi

【勉強会の目的／背景】

私たちは、開発（Develop）を愛する人たちの集まりです。開発の楽しさを再発見し、広げるために、下記2つのコンセプトのもと、明日の開発の現場に役に立つことを目指した勉強会やイベントを開催しています。

1. 開発の楽しさを発見しよう。広げよう。
2. 開発の現場を前進させよう。

開発の現場を前進させるとは、私たちの現場を変えていくことにほかなりません。DevLOVEに集まった人たちが、昨日までなかった何かを始めている。それはたとえ小さくとも、私たちの世界を変える一歩にほかならないと信じ、我々はDevLOVEという場と機会を創り続けています。

DevLOVEの発足は、2008年6月21日に開催されたRubyKaigi2008まで遡ります。イベントの帰り道、開発の楽しさを広めたいという想いに駆られた2人が始めた社内勉強会が、DevLOVEとしての最初の活動でした。社内勉強会を続けるにつれて、DevLOVEの活動をさらに広げたいとの想いが高まり、やがてその活動範囲は社内から社外へとシフトします。運営スタッフもさまざまな企業から参加するようになり、各メンバの仕事内容や興味分野が異なる点が、DevLOVEの多様性につながっています。

2011年の夏には4年目を迎え、少人数でのワークショップや、参加者主体で始まった地域読書会、参加者が勉強会後も交流できるオンラインサロン(yammer)など、コミュニティの活動をさらに広げています。

【DevLOVEの活動】

勉強会は、平日の夜を中心に不定期に開催しており、テーマや内容に合わせて以下の企画を使い分けて開催しています。

- 講師による講演
- ダイアログによる参加者同士の対話
- 参加者も巻き込んだLT（ライトニングトークス）
- ピアバッシュ形式による自由な雰囲気での交流

講演をただ聴くだけでなく、発表者も交えて参加者全員で意見を交わすことで、多様な考えに触れ、自分自身の考えも整理でき、新たな気づきを得ることもできると考えています。2010年の開催回数は26回を数えており、その中には休日に開催したマルチセッションのカンファ

レンスや、企業／コミュニティとのコラボ企画なども含まれています。テーマは、運営スタッフや参加者それぞれのコミュニケーションの中から生まれているため、特定の分野に寄らない、多彩な内容となっています。講演者はスタッフ自身、あるいはそのテーマに一家言持っている方をお招きしています。

【活動履歴】

以下は、2010年のDevLOVEの活動履歴の一部です。

開催日	テーマ	タイトル	内容
2010/05/28	ダイアログ	ダイアログで開くITのこれからの世界 - DevLOVE.Cafe -	DevLOVE イベントの特徴とも言えるダイアログを切り出したイベント。
2010/09/01	社内勉強会	第2回社内勉強会×勉強会「我々の現場は前進する」	「社内勉強会」をテーマとした講演。
2010/09/30	アジャイル	Energized Work !	XP祭り2010の講演の再演と、Energized WorkをテーマとしたLT。
2010/11/06	ライトニングトークス	GLT×とべとべ×DevLOVE LT祭り～5分でセカイを凌駕せよ!!～	「LT練習会」をテーマとしたコミュニティコラボイベント。
2010/11/25	企業とコミュニティのコラボ	NHN Japan × DevLOVE 「境界を超えた協創～bloom beyond the boundaries～」	「境界」をテーマとした企業コラボイベント。
2010/12/18	Hangar Flight	DevLOVE HangarFlight-Winter Sortie -	マルチセッション+LT+ピアバッシュの大規模イベント。

【これからのDevLOVE】

DevLOVEでは、今まで通りに勉強会やイベントを行うだけでなく、DevLOVE Pub（電子書籍企画）やDevLOVE LED（サービス企画・開発）といった、これまでの勉強会コミュニティにはない活動も始めています。「勉強会コミュニティとはこういうもの」という既成概念にとらわれず、さらに活動領域を広げていきます。DevLOVEだからこそ、DevLOVEにしかできない、新たなコミュニティの形がここにあります。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

あなたもぜひDevLOVEに巻き込まれてみませんか？
メーリングリストと公式サイトは以下となっております。

<http://groups.google.co.jp/group/devlove-link>

<http://www.devlove.org/>

ご参加を心よりお待ちしております。

東京都



Flash とおやつのかい

【主たる開催地域】東京都 【主催者】(有)水玉製作所 梅原宗士 【連絡先】umehara@mztm.jp

【勉強会の目的／背景】

Flash を初めて起動するところから始めるハンズオンセミナーの「基礎編」と、実務レベルの参加者同士が発表しあう「ゼミ」の2種類があり、どちらも毎回十数名で行っています。参加者には、勉強会中に食べるお菓子の持参をお願いしているところから「おやつのかい」と名づけました。

■基礎編に関して

2005年にこの勉強会を始めた頃は、Web デザイナが主な参加者でした。その後、2ch系のFlash職人志望者が増えた時代を経て、現在ではWeb系プログラマ(Java/PHP/Perl)の参加者が半数近くに増えてきました。

Flashは、Web向けのグラフィカルなモーションを手軽に作れる開発環境ではありますが、各参加者のスキルには大きなばらつきがあるので、急ぎ足にならないようにゆっくりと繰り返しながら、一方で成果を実感しにくい部分をばっさりとはしりながら、4~5回の授業でミニゲームを作ることを目標にしています。

Flashで用いられるActionScriptという言葉は、JavaScriptの記法を元に、JavaやC++から強く影響を受けたオブジェクト指向言語として整備されているので、すでに何らかの言語を身につけた方は覚えが早いようです。

毎回復習用の簡単な宿題を出しますが、提出はWeb上で共有することを推奨しているせいか、ひねりの利いた小ネタアニメーションを参加者同士が競うように作ることも少なくありません。勉強の励みが得られるような仕組みがうまく機能すると、上達が早くなります。

■ゼミに関して

すでにFlash/ActionScriptを十分に理解している方向けのかいです。それまで1年に1回程度でやっていたものを、2010年から定期的な会にしました。

30分を1コマとし、Flashや関連技術の解説をします。高レベルな技術であることを求めているはませんが、

Flash技術者がカバーする領域の範囲が広く、また人によって得意分野も異なっているので、毎回それぞれに有意義な内容になっています。

【勉強会の定期的活動】

主催側の繁忙期を避けながら、基礎編は不定期に、ゼミは毎月1回のペースで行っています。会場は東京都新宿区大久保の(有)水玉製作所のスペースを利用しています。場所柄、近所には韓国料理屋さんがたくさんあるので、勉強会の後は懇親会としていろんなお店に行きます。Flashもおやつも良いですが、韓国料理もおいしいです。

【今後の目標】

今後は一層、簡単に楽しく作れることを実感できる勉強会にしていくことが目標です。楽しさを味わった後なら、いろいろな部分に面白さを見出すことができるようになるのではないかと考えています。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

私たちの勉強会に興味をわいた方は、ぜひ、サイトにアクセスしてください。

Flashとおやつのかい
<http://oyatsu.mztm.jp/>

ここ最近のHTML5への注目や、iOS(iPhone/iPad)のFlash非対応は、ちょっとした逆風になってしまっています。しかし、ユーザインタフェースをアニメーションでキレイに纏め上げることがどれだけの価値を生むか、ということを実証・実感させたという意味で、iOSがFlashやその技術者の価値を高めてくれた面もあります。

今後、楽しいものを作れるスキル自体の価値がさらに増すことはあれ、減じることはないでしょう。実務に耐え得る無料の開発環境(FlashDevelop)もあるので、興味を持った方はぜひ、お気軽にご参加ください。



Formal Methods Forum

【主たる開催地域】東京都 【主催者】(株)豆蔵 小林健一, @tmiya_ 【連絡先】@kencoba

【勉強会の目的／背景】

私たちの目的は、ビジネスの場で形式手法を使うためのスキルを身につけることです。

形式手法 (Formal Methods) とは、数学を基礎としたシステム開発手法の総称です。従来手法よりも欠陥を減らせる手法、特に設計段階での欠陥を取り除く手法として注目されています。これまで Z, VDM, B-Method, SPIN, CSP などの手法が開発され、鉄道や宇宙システムなどのミッションクリティカルなシステム開発への適用が行われてきました。ここ数年では、自動車産業での機能安全の取り組みと合わせ、日本でも注目されています。また、エンタープライズ向けの研究も行われています。

これまで形式手法は、重厚長大で費用がかかり、導入が難しいと言われてきました。しかし、近年のコンピュータハードウェアの性能向上と、関数型言語の研究成果など理論面の向上により、導入の敷居は格段に下がってきています。私たちがモデリングツールを利用する延長として、あるいはプログラミングの延長として、手軽に形式手法を使える環境が整ってきているのです。

ですが、私たちが形式手法を使いこなす上ではもう1つ必要なものがあります。「手軽に勉強ができる場」が必要なのです。プログラミング言語の文法を知っているだけでは高品質なソフトウェアが作れないのと同様、形式手法のツールを知っているだけでは高品質な設計はできません。巷に有料の形式手法セミナーはありますが、組込み向けであったり、特定の手法に偏っていることが多く、広く勉強ができるとはいにくい面があります。また、形式手法に関連する数学の勉強に対しても、公開講座が見つからない、自分が卒業したゼミからの繋がりも期待できないという状況がありました。そこで、「無いならば作ろう」ということで始めたのが Formal Methods Forum, 通称「FM-Forum」です。毎月1回、新宿で開催し、みんなで意見を持ち寄りながら勉強を続けています。

【勉強会の定期的活動】

開催は毎月1回ペースです。1回あたり13:00-19:00で開催します。会場は現在、(株)豆蔵トレーニングルームを利用しています。内容は特に限定していませんが、現在の主なトピックとしては、Coq Proof Assistant や Alloy Analyzer というツールがよく扱われます。形式手

法と関連の深い、数学や関数型言語の話題で盛り上がることも多々あります。勉強会終了後は、懇親会を開いています。会場の近くで、引き続き技術者らしいお話が楽しく続きます。

【これまでの成果】

以下は、主な外部活動の一覧です。

実施日	内容
2010年7月12日	名古屋市工業研究所様主催無料セミナー「Alloy Anlyer 入門」(小林健一)
2010年9月22日	ThinkIT「モデリング技術の新しい動向 第3回：形式手法とモデリング」記事執筆 (http://thinkit.co.jp/story/2010/09/22/1766) (小林健一)
2010年10月29日	トップSE交流会「形式手法とアジャイルモデリング」(小林健一)
2010年11月20日	第6回CSP研究会「形式手法ツール Alloy Analyzer を用いたアジャイルモデリング」(小林健一)「定理照明器 Coq と証明付き DSL」(@tmiya)

今後も各自が好きなテーマでコンテンツを作成し、発表していく場を作りたいと考えています。

【今後の目標】

2011年のコンセプトは「一人一芸」です。各自が好きなテーマを持ち、外部で発表できるよう、みんなで協力します。毎回の勉強会の内容としては、ツールと合わせて数学の勉強も積極的に取り上げていきたいと考えています。また、初心者への対応として、初心者向け追加勉強会の開催も考えています。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

私たちの勉強会に興味を湧いた方は、ぜひ以下のメーリングリストにご参加ください。

Formal Methods Forum メーリングリスト

<https://groups.google.com/group/fm-forum>

問合せについては、下記 Twitter アカウントでもお話できます。

@kencoba

「こんなイベントをやりたい」とかいうお話は大歓迎です。

形式手法の本質的な課題である「正しさの追求」は、簡単に解決する問題ではありません。ですが、本当に難しい課題だからこそ、挑戦する価値がありますし、できたときの感動があると思います。ぜひ、一緒に議論して、自分の成果を作り上げていきましょう。

東京都



【デザイン】

F-site

【主たる開催地域】東京都 【主催者】沖 良矢(世路庵) 【連絡先】@448jp

【勉強会の目的／背景】

F-site (エフサイト)は、Adobe Flash のユーザグループとして 2001 年に設立されました。Web サイト運営と定期セミナー開催の 2 つを活動の柱としており、Adobe の公式ユーザグループとしても認定されています。設立当初は Web、書籍ともに Flash に関する情報が少なかったこともあり、「Flash をとりまく環境をちょっとでも良くできたらなあ」という思いから有志が集まり、以来 10 年近く楽しいコンテンツ制作に役立つ情報をお届けしています。現在、15 名の運営スタッフを中心に、セミナー当日の運営をサポートするボランティアスタッフ 33 名を加えた総勢 48 名が活動に携わっています。

活動の特長として、Flash にかかわりのある分野を幅広く扱うことが挙げられ、アニメーション、スクリプトに始まり、デザイン、演出、ディレクション、モバイル、3D など、特定の職種やスキルに限定されないように配慮しています。これまで、定期セミナーの講師としても国内外の Flash 技術者、開発者はもちろん、アーティストユニットのうるまでるび氏、アニメーション作家の山村浩二氏、Max Weintraub 氏など、F-site の主旨にご賛同いただいた多彩な顔ぶれをお迎えしています。また、定期セミナーではセミナー本編の内容もさることながら、参加者、講師、スタッフ同士の交流の場としての側面も重要と考えています。普段は制作現場で一人仕事に没頭する方でも、F-site のセミナーに来ることで同じ喜びを共有したり、お互いの悩みを解消したりというように、有益な Flash コミュニティを醸成していければ、こんなに嬉しいことはありません。

【勉強会の定期的活動】

年 4 回の定期セミナーを行っています。セミナーは 3 ~ 4 人の講師をお招きし、それぞれのテーマに沿ってお話しいただく形をとっています。なるべく多くの方にお越しいただくため土日開催を基本としており、1 回につき全体で 4 時間程度の内容になります。テーマにもよりますが、大体 1 回ごとに 100 人程度の方にご来場いただいています。会場は、東京・参宮橋の国立オリンピック記念青少年総合センターを利用しています。変わった点として、ご厚意でご提供いただいたプレゼント（技術書や T シャツなど）を争奪するじゃんけん大会がほぼ毎回開催されていることが挙げられます。また、希望者によ



る 2 次会も開催しています。

【これまでの成果】

これまでに 30 回以上のセミナーを開催しており、延べ 3,000 人以上にご参加いただきました。来場者へのアンケートでも、毎回「仕事の参考になった」「同業者の仲間が増えた」など、さまざまなご好評の声をいただいています。また、セミナーの定期的な開催を続けてきたことで、Flash コミュニティの成熟にも一役買ったのではないかと考えています。

【今後の目標】

現在運営している Web サイトと年 4 回の定期セミナーを続けていくことを第一目標としています。その上で、HTML5 やスマートフォン、タブレット端末など、Flash にまつわる最新の話題を積極的に取り上げていきたいと思っています。もちろん、アニメーションテクニックや演出技法を始めとした、時代に囚われないノウハウも引き続き紹介していく予定です。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

定期セミナーの最新情報は、F-site の Web サイトをご覧ください。なお、セミナー情報はメールマガジンでも配信しており、同 Web サイトから無料で登録可能です。

F-site Web サイト

<http://f-site.org/>

お問合せについても、上記 Web サイトで受け付けています。また、Twitter のハッシュタグとして #fsite を利用しています。

F-site のスタッフやセミナー講師の皆さんは、基本的に無償で活動したり、協力したりしています。それは「知識があるかつまらない思いも少しで済む」から。そして、それらを支えるコミュニティの存在は「もっと楽しいコンテンツ制作への入り口」になるのではないかと考えています。ぜひ、一度ご参加ください。



InfoTalk – AIT Monthly Forum

【主たる開催地域】 東京都 【主催者】 産業技術大学院大学 【連絡先】 @infotalking
【ハッシュタグ】 #infotalk 【Web】 <http://pk.aait.ac.jp/>

【勉強会の目的／背景】

ICT等の高度専門職エンジニアには、知識とスキルを修得するための学校教育と、知識労働者としての知識を最新に維持するための継続教育が必要です。最近の勉強会の多くもこれを自ら感じ、開催されているのだと思います。本学、産業技術大学院大学は、首都東京の産業を牽引する高度専門職の育成を目的として、2006年4月に設立された公立(東京都)の大学院大学で、エンジニアに対し、学校教育と継続教育を提供するため、平日夜間と土曜昼間の授業開講、単位バンク制度、授業動画コンテンツのインターネット配信等の社会人が学ぶ環境を整備すると同時に、修了生への授業動画の提供、地域の技術者への図書館開放等の継続的学修の環境を整備しています。

InfoTalkは、2007年度から産業技術大学院大学で開催されていたAIT Monthly Forumを再編し、技術者が集まって切磋琢磨する学修コミュニティとして機能する勉強会として2008年12月から始めました。

内容は、ICT関連の興味深い技術・活用等を中心に、流行の話題を次から次に取り上げていくスタイルが特徴です。変わったところでは、起業、温室効果ガスの排出権取引等を扱ったこともあります。また、反響次第では再度類似の話題を取り上げたり、独立した研究会等を開催したりすることもあります。

【勉強会の定期的活動】

InfoTalkは、定例で第3金曜日の18:30から本学の品川シーサイドキャンパスあるいは秋葉原サテライトキャンパスで開催しています。

2011年1月で26回と、約2年にわたって開催していますが、参加者のご意見とトレンドを反映し、いろいろと見直しています。InfoTalkでは、2名の発表者が各1時間程度発表します。当初は集客を考慮して最初の1年間はわざと違う内容の発表を組にしていたのですが、最近はより熱い議論ができるように類似の発表を組にするように変更しました。参加受付は、当初独自サイトで行っていましたが、2年目から広告効果を狙ってATNDに変更しました。しかし、無断欠席が次第に増加してきたため、3年目から、InfoTalkで発表していただいたこともある川中さん(@mayahjp)がこのあたりを

考慮して開発してくれたPARTAKE (<http://partake.in/>)に移行しました。広報宣伝は、Webとメールのみから、Twitter等の活用を始めました。InfoTalkの発表は動画コンテンツとして公開しています。当初は動画ファイルをWebに置いただけのものでしたが、InfoTalkで発表していただいたOSSの動画配信インフラKalturaを1年ほど利用し、最近ではUstreamによるインターネット中継に変更しました。

InfoTalkは、外部に広く公開された勉強会で、本学の関係者以外の参加を歓迎します。実際、2/3程度は外部からの参加者です。勉強会は時間と場所等の制約から講義スタイルで行われ、議論は勉強会の後の懇親会で行われることが多いので、ぜひ懇親会にも参加してください。開催概要はWebサイトを参照してください。メールとTwitterでも開催の案内をしています。メールでの案内を希望される場合はinfotalk-contact@aait.ac.jpまで連絡してください。

【これまでの成果】

InfoTalkでの交流を契機にベンチャー企業らが集結し、昨年末にInfoBizという産学連携組織が設立されました。InfoBizは、本学が推進する高度専門職の学修コミュニティの構築を支援するための組織で、すでに起業とキャリアアップの支援プロジェクトが動き始めています。InfoBizの詳細は<http://pk.aait.ac.jp/?InfoBiz>を参照してください。

日本経済新聞社 産業地域研究所が日本の約750の大学を対象に調査した『日経グローバル』大学地域貢献度ランキングで、本学は大学院大学部門2年連続1位(総合ランキングでは18位に相当)にランクされましたが、InfoTalkの開催も地域貢献として評価されています。

【今後の目標】

今後、InfoBizメンバ企業と協力し、高度専門職エンジニアの学修とキャリアアップを支援する仕組み等を盛り込んだイベントを年数回開催すべく準備をしています。



OpenSolaris 勉強会

【主たる開催地域】 東京都 【主催者】 加藤久慶 【連絡先】 katohisa@gmail.com

【勉強会をはじめるきっかけ】

OpenSolaris コミュニティ (<http://www.opensolaris.org>) の中に Japan OpenSolaris User Group というユーザグループがあります。そのメーリングリストは、オラクル社がインフラを提供し運営しております。

私自身ユーザグループのメーリングリストは購読していたものの、当時(2008年8月頃から)は、Solarisのソースコードを議論したり、実際に Solaris ユーザ同士が主体となって勉強したり、Solarisの話ができるグループがあるといいなと思ってました。そこで、手始めに、2008年10月18日に Solaris Internals 2nd Edition の勉強会をやるから来てくださいというアナウンスをコミュニティメーリングリストに流したところ、なんと14名も集まりました。想定以上に人が集まり、今後も楽しくワイワイと続けられたらと強く思いました。

勉強会をはじめるには、毎月誰か発表する人がいないといけません(形式的には)、主催する側の人是最初は発表します。勉強会が続けられたら、コミュニティ側の人を巻き込んでいけばいいのかなというイメージを持っていました。勉強会に来ている方々は、主体性を持った方々が多く、自発的に何でもやろうよという声もあがったりして、毎月やるのがそこで決まりました。

【勉強会の目的】

当時の勉強会の目的は、Solarisの内部構造を動的トレーシング機構を用いて議論することが目的でした。Solarisには、DTraceと呼ばれるカーネル構造からアプリケーションの構造を動的にモニタリングする機構が備わっており、たとえば、アプリケーションの性能問題に直面したときにデバック可能な機構を持っています。そのコンセプトをベースに、Solaris Internals 2nd Edition を読み込んでいこうという内容でした。



勉強会を続けていくという過程を踏んだ場合にやはり問題というのは出てくるものです。たとえば、ある特定の人だけがプレゼンを行うというサイクルに陥ったり、参加者のレベルが高すぎるというような声があがったりしました。そこで、「出席者の中から初心者向け勉強会も大事だよ」とか「管理者向けの勉強会も開催しよう」とか、色々な声があがってきました。最初に主催した私にとって嬉しい声でした。勉強会は、ある特定の個人に有するものでなくて、皆で築き上げていくものだということを再認識した瞬間でした。

【勉強会の成果】

Solaris 関連本の執筆、OSC (オープンソースカンファレンス) への参加、Developers Summit への参加など、活動範囲を外部に広げています。人と人が Solaris を勉強するという目的で集まるだけで、多くの成果が現れてくるものだと考えております。まだ、勉強会ができてから2年間しか経っていませんが、これからも多くの Solaris ユーザを巻き込む勉強会にしていけたらと思います。



TechHUB

社会人から学生の皆さんへの技術伝達勉強会

【主たる開催地域】東京都 【主催者】(株) KISSAKI 代表取締役社長 井上 徹 【連絡先】@toru_inoue

【勉強会の目的／背景】

TechHUB (テックハブ) は、教えたがりの社会人の技術者、専門職の人間が、学生へと授業を行う、少し変わった勉強会の場です。現役の iPhone アプリ開発者、Flash デベロッパ、Android アプリの開発者など、現在第一線の技術を持っている人々が、講師として授業を行っています。

授業は講師発のスケジュールに則り、学生の皆さんへと公募を行います。応募が多い場合は抽選になってしまいますが、授業料は無料です。これまでに iPhone アプリ開発に関する授業を行い、殺到する応募、意欲的な学生の皆さんの姿勢、講師の凹っぷりなど、驚くほど多くの出来事や発展に恵まれてきました。

ところで、「新卒、自信を持って採れますか?」という質問を投げかけられたとき、どのようにお感じになりますか? TechHUB は、「学生の成長」を1つの目的としています。成長を促す数多くの方法の中の1つが、学生のうちからより実践的な技術に触れられる場を提供する、という考え方であり、TechHUB が実践している手法です。「学生のうちからできるような人材を一人でも多く、育てればいい。それを、教えたがりの社会人がやればいい」というのが、私たちのスタンスです。

同じような考え方の試みとして、企業のインターンがあります。でも、大学1年~4年、院生までを相手取った、現役技術者による実践的な教育の場、というのは、ほかにはないでしょう。

TechHUB の運営母体は、講師です。ヘタをするとプログラム未経験の学生の皆さん相手に、授業をしています。しかし教える側の社会人にとっても、教えるという行為は大きなプラスを生み出します。自分の理解が、人に伝えられるレベルにまで深めてくれることにもつながったのです。今まで掘っていなかった技術を俯瞰する

機会に恵まれたり、学生からの自然な質問に感化されて、新しい概念を思いついたり、教える側にも、大変な収穫があります。授業で取り上げるからには仕方ない、というスタンスだったはずが、会を続ける上で非常に大きなモチベーションになるのです。

文面のみを追うと、なんだかロマン溢れるベストマッチングのような見え方をしていますが、もちろん利権も渦巻いております。プログラミングが習得できるに当たって、学生の皆さんがとても輝いて魅力的な人材に生まれ変わります。そういった人材を、間近で、教えるという行為によってより深く理解できる、というのも講師の役得です。面接では、見つけられない、学生の皆さんの特性や、伸びしろを実感できます。TechHUB では、特に講師から学生への勧誘を禁じていません。ただし、最後は学生の皆さんが決めること、という前提です。

最後に少し、道義的な話になりますが、誰かに何かを教えてもらわなかった人間は、教えることについて消極的になりがちです。殊に今のITの世界において、筆者も独学で学びました。会社においては、見て盗め的な教育(?)もありました。そのような背景から、世界の最先端に近い位置に、自助努力のみで追いついていける最後の世代ではないか、と筆者は考えています。進歩は人の能力に関係なく進んでいきます。今後は勉強会を通して、自発的に次の世代を教える人間が出てくることになるでしょう。

【今後の TechHUB】

来期、2011年の3月からは、iPhone, Android, Flash などの授業が開講予定です。社会人向けにも門戸を開きますので、ご期待ください。ご参加希望の方は Web サイトをご覧ください。

<http://techhub.jp/>



Tokyu.rb

【主たる開催地域】東京都 【主催者】河野 誠(@ginkouno), 小川伸一郎(@conceal_rs) 【連絡先】@ginkouno, @conceal_rs

【勉強会の目的／背景】

Tokyu.rb は東急線沿線（乗り入れも含む）に住む Rubyist（Ruby を使う人々）が集まるコミュニティです。他のいわゆる勉強会とは異なり、集まって何か技術的なことを勉強するわけではなく、1.5月～2月に1回集まって肉と酒を嗜むのが主な目的です。またこれまでに2回 TokyuRubyKaigi という、地域 Ruby 会議を開催しています。パッと見たところ、ただの飲み会になってしまっていますが、何度かの変遷を経て、この形態に至りました。

【設立の背景】

もともと Tokyu.rb は、Ruby 会議 2008 の Asakusa.rb や Akasaka.rb に触発され、帰る途中で当時同僚であった @ginkouno さんと「Ruby の勉強会のコミュニティ作りますか」と話し合ったことがきっかけで始まりました。当初は勤務地の最寄り駅である「Midorigaoka.rb」にしようとしていたのですが、どうせなら沿線にしようとして「Tokyu.rb」と決めました。目的としては、もくもくコーディングしたり、Seattle.rb のようにプロダクトを発表したりと、エンジニアリングを中心とした活動にしようと考えて開催していました。

ところが自由が丘のビアバーでのもくもくコーディング形式にして開催したところ、徐々に参加人数が減少してきてしまいました。そこでと言うわけではないですが、4回目から居酒屋で集まっているいろいろ話をしてみることに。すると、その後の忘年会と新年会を挟んで、多くの方が訪ねてくれるようになりました。いろいろな人と話しをするなかで、「勉強会だと、ちょっと行き辛さを感じる」や「セミナーや勉強会だと、気軽に話しができない」といった意見を聞くことができました。それであれば、「肉と酒を嗜みながら、Ruby や技術的なことについて話をし、親睦を深め、交流をする場にしようか」ということになりました。このあたりから目黒に開催場所を移したことも功を奏して、多くの方に参加していただき、交流を深められるようになりました。また近頃はお酒を飲まない人も多いのですが、Tokyu.rb では肉も主体とすることで、お酒が飲めなくても楽しめることも一因となっていると考えています。

このような経緯で現在の形態に到達したわけですが、勉強会の目的の1つである「エンジニア同士の交流を深

める」ことに特化した形ではないかと考えています。

【これまでの成果】

これまでに Tokyu.rb として 15 回開催しています。現在の形態になってからは、平均 18 人程度の参加者となっています。また毎回数人の初参加者に来ていただいております。さらに TokyuRubyKaigi という地域 Ruby 会議を 2 回開催しています。詳しくはるびまのレポートを参照していただきたいのですが、おそらく最も発表への敷居が低い場所となっており、勉強会と言えればの吉岡さんも「酒飲みながらの勉強会って勉強会の完成形だなあ」と言われている、ほかでは体験できない地域 Ruby 会議となっています。

Rubyist Magazine - RegionalRubyKaigi レポート (12)

Tokyu Ruby 会議 01

<http://jp.rubyist.net/magazine/?0029->

TokyuRubyKaigi01Report

hyoshiok さんのつぶやき

<http://twitter.com/#!/hyoshiok/status/6165740352>

【今後の目標】

Tokyu.rb は交流こそがコミュニティにとって一番重要であると考えて、さらに幅広い参加者に来ていただけるように、宣伝活動をしていきたいと考えています。また TokyuRubyKaigi も継続的に開催し、敷居の低さを維持し、さらに交流ができればと考えています。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

まずは qwik にご参加ください。ここで告知を行っています。

Tokyu.rb

<http://qwik.jp/tokyurb/>

また Tokyu.rb 自体は、基本的に ATND で募集しますので、そちらで参加登録してください。Rubyist でなくとも、ちょっとでも Ruby に興味がある方や、東急沿線でない方まで、どなたでも参加可能です。みなさんのご参加を心からお待ちしております。



アルゴリズム勉強会

【主たる開催地域】 東京都港区六本木一丁目 (株) Speee セミナールーム 【主催者】 (株) Spee 木村 理 【連絡先】 @oskimura

【勉強会の目的／背景】

プログラミングやコンピュータサイエンスの基礎であるアルゴリズムを実装だけではなく理論方面も含めて勉強をしたいと思い本勉強会を開きました。私自身 SICP (計算機プログラムの構造と解釈) 読書会などの勉強会に参加した経緯から、勉強会でやるなら一過性の流行りの技術よりも、コンピュータサイエンスの基礎など流行りに左右されない勉強会をしたほうが勉強会でやる意義があると思いました。

近年、TopCoder のような競技プログラミングが流行って、アルゴリズムの重要性が再認識されてると思います。私自身いろんな勉強会に参加していますが、アルゴリズムに絞った勉強会はこれまで開かれてきていませんでしたので、そのあたりの需要も見込んでいました。

【勉強会の定期的活動】

現在は「アルゴリズム・イントロダクション」という本の輪読を行っています。この本を選んだ理由はマサチューセッツ工科大学をはじめアメリカの多くの大学でアルゴリズムの教科書として使用されている古典的な教科書だからです。内容も基礎からみっちり解説してあり、一人で読むと挫折しそうな分量と難易度なので、これは勉強会向きだろうということで採択しました。

参加メンバはプロバイダ会社の技術トップや数学科出身で金融工学システムや、音声認識システム開発者などや、プログラミングコンテストをやっているような人たちです。年齢はだいたい 25 ~ 35 歳くらいですね。京都からいらっしゃる熱心な方もいます。

月に一度、原則として第一日曜日に開催することになっています。各自予習を行い本に載っている擬似コードや演習をやってくることになっています。本をみんなで輪読し、分からないところや疑問点があれば随時質問するようにしています。書いてきた擬似コードや演習のコードを見せ合ったり、証明をホワイトボードに書いたりします。ソースコードは Java, OCaml, Scheme, Lua, C など多彩な言語で書かれていて言語間の違いの勉強にもなったりします。

当日にまでにやってきていない演習などはその場でみんな考えることになっています。基本的には演習を解くのが勉強会の中心です。これは私が SICP 読書会の経験から、問題を解くことによりただ読むよりも勉強になるからです。アルゴリズムの正当性の証明や計算量推定の方法といった基礎の段階です。

勉強会終了後は、懇親会を開くのが一般的ですね。問題は日曜の六本木はあまりお店が開かれてないことです。

【これまでの成果】

まだ、始めたばかりなのでこれといって目立つ成果は今のところないです。しかし、アルゴリズムの証明や計算量推定の方法などは業務のなかで各個人が活かしていくのではないのでしょうか。二巻から動的計画法や赤黒木のような実用的なアルゴリズムも出てくるのでそちらの方にも期待したいです。擬似コードや演習を実際にコードに落としたものは各個人が ideone や github, ブログなど Web 上にあげています。また、Wiki で勉強会の成果をまとめるようにしています。

【今後の目標】

いまはとにかく「アルゴリズム・イントロダクション」を読み終えることです。また、上記で述べたように勉強会の成果を Wiki にまとめています。後々読む人の助けになるような資料になることを目指して作成しています。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

本勉強会に参加する方法は、以下の URL をご覧ください。

●アルゴリズム勉強会

<http://groups.google.com/group/>

itroductiontoalgorithm

また問合せについては、下記カウントにお願いします。

@oskimura

oskimura@gmail.com



決定不能の会

【主たる開催地域】東京都 【主催者】東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程／日本学術振興会特別研究員(DC) 平井洋一
【連絡先】@pirapira

【勉強会の目的／背景】

決定不能な問題というのは、どんなプログラムを持ってきても解けない問題のことです。問題を解くには、どんな入力が増えても正しい出力を返せばよいのですが、決定不能な問題には、どんなに巧妙にプログラムを書いても、そのプログラム用のいじわるな入力を与えると、正しい出力を返しません。決定不能の会は、たくさんの決定不能な問題が決定不能である理由を納得していく会です。

もともとは、2009年に末永幸平(@ksuenaga)さんがTwitterに「候補2: 決定不能問題勉強会(世の中の決定不能問題とその決定不能性の証明をかたっぱしから追いかける)」と書いたことから始まった会です。ほかにも面白い候補があったはずなのですが、執筆時点では見られなくなっていました。

【勉強会の定期的活動】

毎回テーマを定めて、決定不能性や決定可能性に関する問題についてメンバが発表します。場所は東京大学本郷キャンパスで行うことが多いです。周りの部屋にいる暇な助教さんが見に来ることもあります。Ustreamで配信することもあります。つっこみは後回しにしないで、その場で考えはじめることが多いです。場合によっては黒板で計算を始めることもあります。

参加者は、複数の民間企業の研究者、情報系のポスドク研究員や学生で占められています。ときどき経済学部の学生が来ることもあります。

【これまでの成果】

これまで8回開催して、いろいろな決定不能性の証明を読んできました。ほとんど毎回チューリングマシンの決定不能性を利用してきました。そのため、毎回違う方法でチューリングマシンを作ってきました。喩えると、今回は紙だけで家を建てようとか、今回は泥だけで家を建てようとかいう話に近いです。不思議な材料を使って決まった形のものをつくらうという方針で話が進みます。このため、理論計算機科学に登場するいろいろな素材に詳しくなれます。たんに知識が増えるだけではなくて、

いろいろな素材を数学的に扱う技術を磨くことができます。技術者のいう技術と関係あるかは不明ですが、理論屋のいうテクニカルな話に詳しくなってきました。

Postの対応問題 -- 文字列

Word problem -- 半群とか群とか

Hilbert 第10問題 -- 多項式

有限トランスデューサの等価性 -- オートマトン

Riceの定理 -- 再帰関数

$S5 \times S5 \times S5$ -- 様相論理・Kripkeモデル

一般Collatz予想とかFRACSTRAN -- 有理数

Domino problemの決定不能性 -- タイル張り

さらにややこしいのは中間次数の話で、無数のチューリングマシンからなる群れ2つを戦わせ、片方の群れの将来の振る舞いがすべて分かっててももう片方の群れの将来の振る舞いを計算できないという状況を作り出します。

個人的に得たご利益は、ややこしい証明に慣れたので、自分の研究の中でややこしいことをすることへの躊躇が減ってきたということがあります。もちろん、難しい問題を簡単な手法で瞬時に倒すのが一番偉い仕事ですが、必要なら泥臭い構成も厭わない心構えは重要だと思います。

【今後の目標】

新しい決定不能問題を見つけて論文を書くのが目標です。せっかくなのでたくさんの決定不能問題を見てきたのだから、別の問題を見たときに「おまえは決定不能だ!」と見抜けることも多いはずです。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

毎回内容を積み上げているわけではないので、途中からでも参加できます。加入方法は<http://pira.jp/undecidable>をご参照ください。メーリングリストに参加して自己紹介を書くことが必要です。各回、各自予習してきて、できる限りの貢献をしてほしいです。みんなが決定不能になりましょう。



圏論飲み会 / CLTT 読書会

【主たる開催地域】東京都 【主催者】今井健男 【連絡先】 takeo.bono@gmail.com

【勉強会の目的 / 背景】

私たちは、圏論という数学の理論を中心に、計算機の基礎理論を勉強しています。

1980年代以降、計算機科学、特にプログラミング言語の基礎理論において圏の応用が盛んになりました。そして圏論が分からないと読めない論文が大量発生しました。圏論なんて、情報系はもちろん、数学科の学生ですら学ぶ人は限られるというのに。

こうして書かれた論文は、普段は「圏論ディバイド」のあちら側にしか出回らないのですが、たまにこちら側、研究者でもないプログラマの世界に漏れてくることがあります。その最たるものが、関数型言語 Haskell のモノドです。

モノドは元々圏論で記述される特定の数学的構造のことなのですが、なぜか Haskell で I/O を扱う標準的枠組みとして採用されています。

Haskell のモノドを理解したい人が集まり、圏論の勉強を始めたのがこの会の前身である「圏論勉強会」発足のきっかけです。2004年のことです。

しかし、私たちはモノドに飽きたりませんでした。死の谷の向こうへ飛び立つ翼を得た私たちは、圏論で書かれたさまざまな文献を読破することになりました。

そして2009年暮れ、私たちは勉強会をいったん解散し、同好の士が集まってさまざまなイベントを企画・遂行する緩やかなコミュニティ「圏論飲み会」と、その主な活動の場としての読書会「CLTT 読書会」へとリニューアルしました。

CLTT 読書会では、通称 CLTT¹⁾ という書籍をひたすら読んでいます。これは圏論を使って型理論を通じて論理学を学べる、野心溢れる 800 ページほどのテキストです。

【勉強会の定期的活動】

CLTT 読書会は、毎月第3土曜 17:00 ~ 20:00 を原則に、渋谷の貸会議室にて開催しています。1回につき1セッション、有志による内容説明のあと、演習問題を適当にチョイスして解きます。内容がハードなため、予習を強く推奨しています。

参加者は情報系技術者が中心ですが、学生の方も多いです。情報科学だけでなく、数学や物理がバックグラウンドの方も参加しています。

圏論飲み会ではほかに、檜山正幸氏による、圏論に詳しくないプログラマを対象にしたセミナー「モニャダラセミナー」を不定期に開催していますし、会のメンバによる他の勉強会とも積極的に交流しています。

【これまでの成果】

圏論勉強会では、テキストとして計7編の文献を読破しました。

その中で、圏論で書かれた量子計算 (quantum computation) に関する論文を読んだのをきっかけに、2009年3月、同分野を研究するイタリア・日本の物理研究者と共同で、小さな研究会を開きました。

圏論はこのように、他分野の研究へも自由に行き来できる "Lingua Franca" (世界共通語) なのです。

CLTT 読書会は2010年末時点で、ちょうど第1章 (100ページ強) まで読み終えたところです。

【今後の目標】

まずは、CLTT の読破です。今のペースだとあと5年かかる計算になりますが……。

また、「モニャダラセミナー」も随時開催していく予定です。

ほかにも並行して色々なイベントを企画しています。今やりたいなと思っているのは、対話的定理証明器 Coq を使って圏論のさまざまな証明を形式的に記述する「Coq で圏論の会」の開催です。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

私たちは何やら難しいことを勉強しているように見えますが、その都度懇親会も開いておりますので、そちらだけに随伴されたい方も参加歓迎です。

本勉強会に参加希望の方は、以下の URL から参加表明ください。

<https://groups.google.com/group/kenron-sesh>

また、セミナーについては檜山氏のブログ (<http://d.hatena.ne.jp/m-hiyama/>) をご参考に。

参考文献

- 1) Jacobs, B.: Categorical Logic and Type Theory, Elsevier Science, Amsterdam (2001).



自然言語処理勉強会@東京 (#TokyoNLP)

【主たる開催地域】東京都 【主催者】@nokuno 【連絡先】@nokuno

【勉強会の目的／背景】

本勉強会では自然言語処理について理論と実践の両面から深く学び、発表と議論を通じて共有していくことを目的としている。自然言語処理とは、人間が書いた文章をコンピュータによって高度な処理を行うことを目的とした分野である。この分野は歴史が長く、過去の蓄積や既存研究を学ぶ意義は大きい。また、Web データへの応用や、大規模データ処理のような新しい分野の最新理論についても大きな発展が見られている。特に統計的自然言語処理と呼ばれる最近の研究分野の発展はめざましく、Google などの商業的な成功の影響もあり、実用的な面からも大きな期待が寄せられている。

主催者の個人的な事情としては、もともと @naoya_t 氏の「PRML (パターン認識と機械学習) 読書会」や、@hamadakoichi 氏の「データマイニング + Web 勉強会」に参加していたこともあり、機械学習やデータマイニングについて興味を持っていたことが挙げられる。これらの勉強会で出会った人々にはレベルの高い参加者が多く、自然言語処理に興味を持っている人も多かったため、大きなモチベーションとなった。

【勉強会の定期的活動】

自然言語処理にかかわる発表を 1 人 1 時間で 5 人程度が行う。参加者は 30 人 ~ 40 人のときが多い。場所は (株) EC ナビの会議室を @ajiyoshi さんのご厚意でお借りしている。企業に身を置く 20 代の技術者や研究者が多く、学会より実用を志向する勉強会になっている。教科書として Foundation of Statistical Natural Language Processing (FSNLP) を指定しており、第 3 回までは輪読形式の発表が 1 個は入っている。発表の形式は、以下のようなものの中から発表者が選択する。

- 教科書 (FSNLP) の輪読
- 論文紹介、ライブラリ紹介、システム紹介
- チュートリアル、サーベイ

参考までに、第 3 回までの実際の発表タイトルを表に挙げておく。

勉強会終了後は近くの中屋で食事をすることが多い。PRML 読書会の流れを汲んで、交流会的な雰囲気は少ないハードコアな勉強会となっている。

回数	発表タイトル	発表者
第 1 回 2010/7	FSNLP の 1 章を読む ソーシャル検索エンジン Aardvark の論文紹介 Web ページの本文抽出 using CRF LDA で tweet をタギングしてみる FSNLP 2 章	@nokuno @sleepy_yoshi @shuyo @PENGUINANA_ @suzuvie_re
第 2 回 2010/9	クエリ推薦技術について ナイーブベイズで言語判定 FSNLP の 6 章を読む Latent Dirichlet Allocation 入門 Mozc ソースコード徹底解説	@y_benjo @shuyo @naoya_t @tsubosaka @nokuno
第 3 回 2010/11	FSNLP の 3 章を読む 統計的形態素解析入門 統計的係り受け解析入門 EMNLP の論文を読む うきうき☆ Compressed Suffix Array	@hitoshi_ni @nokuno @unnounouno @shuyo @echizen_tm

【これまでの成果】

日常的に自然言語処理にかかわる技術者・研究者が参加しているだけあって、ハイレベルな発表と活発な議論が行われている。主催者個人としても大変勉強になっており、自分が勉強するために主催をやっているようなものである。参加者にとっても勉強した成果が各々の仕事や研究に役立っていれば幸いである。本勉強会の参加者の中から出てきたアウトプットとしては、第 2 回で発表されたサイボウズラボの中谷氏による言語判定ライブラリが挙げられる。

<http://code.google.com/p/language-detection/wiki/ProjectHomeJa>

【今後の目標】

主催者としては、まずは開催を継続することが目標である。今後も自然言語処理についての理論と実践を学ぶ場として、定期的に開催したい。また、主催者が飽きっぽいので、国際会議の開催に合わせた論文読み会や、時間を決めて実装を行うハッカソンなども行ってほしいと考えている。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

本勉強会に参加するには、まず Google グループに登録を願いたい。次回開催の日程や参加のための ATND の URL などの連絡に利用している。

自然言語処理勉強会@東京 (Google グループ)
<http://groups.google.com/group/tokyotextmining>
 また問合せについては、下記 Twitter アカウントでお願いしたい。

@nokuno



知創研勉強会

【主たる開催地域】東京都 【主催者】(株)ナレッジクリエーションテクノロジー 川村雅之 【連絡先】@riversumida

【勉強会の目的／背景】

我々は、暗黙知と形式知を個人・集団・組織の間で、相互に絶え間なく変換・移転することによって新たな知識が創造されると考えています。この知識創造のスパイラルを、情報通信技術をツールとして使用し、より知識創造のスパイラル・アップが加速し、豊かで調和のとれた社会の実現を目指し貢献してゆくことが使命であると考えています。そのような趣旨のもと、新たなソリューションを社会に提供してゆくために、情報通信技術の分野ばかりではなく適用する社会環境、経済、文化など多岐な分野にわたって知の集積と創造を行うために勉強会を開催しています。勉強会のテーマは、社会問題を解決するための、あるいは何らかの社会的価値を実現するためのシステムの構築、社会的・技術的イノベーションを通じ、社会の円滑な運営を実現することを目標としたものを対象とします。目的が合致していれば、理論的研究から実践的研究まで、また自然科学的研究から経済・人文・社会科学的研究まで、幅広い領域を対象としています。2008年10月の勉強会発足時は、6名程度の勉強会でWeb技術やOS技術など情報技術の基礎となる内容を中心に開催していましたが、最近では前述の通り、プロジェクトマネジメント手法や金融情報システム、環境問題など対象分野も拡大して参加者も少しずつ増加しています。

【勉強会の定期的活動】

各月1回もしくは2回のペースで、業後の時間帯である18時30分から20時をコアの勉強会の時間として実施しています。テーマは事前に過去の参加者にメールで案内を出し、参加の可否を確認しています。場所は、当社事業所内のプロジェクトルームや会議室を中心に活動しています。1回の勉強会で取り上げるテーマは1つで最初の60分間が登壇者の講義・講演、残り30分で質疑応答が行われるケースが通例です。勉強会終了後は、有志で懇親会を開催し、時間内に議論しきれなかった内容について熱気あふれる議論が引き続き行われます。また、議論の中から新たな気付きや知識創造が行われ、新しいソリューションやサービスなどの企画立案やプロジェクト遂行のためのヒントなどが得られる場の提供ができればと考えております。

【これまでの成果】

勉強会で取り上げた内容をそれぞれの研究テーマとして論文として取りまとめ、「知創研シンポジウム」を年1回開催し社会技術・イノベーションにかかわる研究の成果を発表しています。また発表された論文は論文集として取りまとめ製本して配布することによって知の移転、情報発信を行っています。シンポジウムは過去2回実施しており、業務の場とは異なる環境で闊達な議論ができるよう、沖縄で行いました。今後もシンポジウムを開催してゆくとともに、勉強会で取り上げた内容について、関連の学会などでも成果を発表し、積極的に社会に情報発信を行ってゆくことも検討しています。

【今後の目標】

勉強会参加者には、社会人大学院生や産学連携で大学と共同研究をしている人もいます。今後はそのようなネットワークを通じて大学なども連携して、学際的観点からのテーマも取り上げながら、知創研として参加者全員で新たなビジネスモデルの提案、社会起業を目指してゆきたいと考えています。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

現状勉強会は参加者のつながりで参加者を募っていましたが、今後は積極的に勉強会開催の情報を発信してゆきたいと考えております。改めて勉強会のご案内などさせていただきますので、ご興味を持たれた方はお気軽に、下記Twitterアカウントに問合せ、ご意見などください。

@riversumida

勉強会もただ技術を身につけるといだけではなく、その技術をどのように社会でソリューションとして活用・応用してゆくのかという視点と、知の融合によって新たなものを創造してゆくことを主眼とした勉強会を開催しています。新たな知の蓄積、情報化、移転、そしてその先にある社会の変化を実現したい方、知創研に参加いただき一緒に変革を起こしましょう。



プログラミング生放送勉強会

【主たる開催地域】東京都 【主催者】プログラミング生放送 5zj 【連絡先】@jz5, @pronama

【勉強会の目的／背景】

プログラミング生放送は、ニコニコ動画 (<http://www.nicovideo.jp>) のコミュニティサービスを利用して作成されたオンライン上のコミュニティで、2009年からオフラインイベントとしてプログラミング生放送勉強会を始めました。特定の分野に興味のある人たちの交流の場として不定期に開催しています。勉強会のテーマは特に限定せず、IT (Information Technology) ・開発系であればノンジャンルです。

【勉強会の活動内容】

これまでに東京・大阪・名古屋で勉強会を開催しています。今のところ東京での開催が最も多いです。参加者の層は幅広く、IT関連や開発職以外の方の参加もあり、学生の参加も多いです。勉強会の形式は、プロジェクトを使用し特定のテーマをひとりが紹介する 세미나形式を多く行っています。

特徴のひとつとして勉強会の模様をライブストリーミングで配信し、視聴者はコメントで参加できることがあります。コメントは、MISAO (<http://misao.codeplex.com/>) というプレゼンテーションツールを使用して図のようにスライド上に重ねて表示して会場に反映しています。このスライドにコメントを重ねる手法のことをニコニコメソッドと呼んでいます。コメントの表示については賛否ありましたが、おおむね参加者・スピーカーの方ともに好評をいただいています。

これまでに勉強会で扱ったテーマは、スマートフォンアプリケーションの開発、クラウドコンピューティング、Webアプリケーション開発、クライアントアプリケーション開発、特定のプログラミング言語の紹介や、特定のライブラリの紹介など多種多様です。また、スピーカーの方も、本職の方から趣味で開発されている方、学生などいろいろな方に話していただいています。



【今後の予定】

今後は、これまで開催していない地域での開催や、テーマを限定した勉強会も企画しています。また、ライブストリーミングの方法や勉強会の形式については、よりおもしろい形でオンライン・オフラインから参加できるよう模索していきます。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

勉強会の情報は、ニコニコ動画内のコミュニティサイトおよびブログならびに Twitter で開催のつどお知らせしています。

<http://com.nicovideo.jp/community/co9320>

<http://pronama.wordpress.com/>

@pronama, #pronama

プログラミング生放送勉強会は気楽なイベントです。お近くで開催の際は、ぜひお気軽にご参加ください。オンラインでの参加もお待ちしています。



日本 Android の会テスト部 (ATEC)

【主たる開催地域】 東京都 【主催者】 (株)オープンストリーム 宮田友美 (@miyatay) 【連絡先】 @miyatay

【勉強会の目的／背景】

日本 Android の会テスト部 (以下、テスト部) は Android 開発におけるテスト手法の確立ならびにノウハウの蓄積とその公開, さらに, Android 端末の実機での検証を行う場の提供を目的として設立されました。

Android 端末の普及は世界規模で増加の一途をたっています。米国の調査会社である Canalys 社の調査では, Android 端末の世界出荷台数は 2010 年第 3 四半期に 2000 万台以上となっています (出典: <http://www.canalys.com/pr/2010/r2010111.html>)。

これに伴い, エンタープライズ開発における Android の重要性も増してきました。特にエンタープライズ向けの開発では開発規模の大きさや契約の関係で, テストの重要性が高まります。

Android は標準でテスト用 API が提供されていますが, 活用できる開発者の数は多くないのが現状です。テスト部では標準のテスト用 API を利用したテストコードを作成し, そこから得られたノウハウも公開したいと考えています。

また, Android 固有の問題として機種が多様性があげられます。ハードウェアの違い, OS のバージョンの違い, ロケールの違い等でさまざまなプラットフォームでアプリケーションを動作させる必要があります。多くのプラットフォームでアプリケーションの動作確認を手動で行うにはコストがかかりすぎてしまいます。

機種間の差異は, 特に個人の開発者にとっては悩みの種です。世界を見渡すと非常に多くの種類の Android 端末が発売されていますが, それらを個人ですべて入手するのはほぼ不可能です。そこで, お互いに持っている端末を持ち寄って実機テストを助け合える場を提供できればと考えています。それでもすべての端末を準備するのは難しいですが, 販売台数が多い端末ならある程度持ち寄ることが可能です。端末を持ち寄りテストを行い, 開発者同士の新しい交流が生まれることを視野に活動しています。

【勉強会の定期的活動】

月 1 回のペースで開催しています。会場は現在, (株) ACCESS または (株) オープンストリームの会議室を利用しています。内容は主に以下の 2 点です。

- ①テストにかかわる発表 (主に Android アプリに関連する内容) および発表内容についての討論
- ②テスト部で取り組んでいること, 今後取り組んでいくことについての討論

勉強会終了後は懇親会を開催し, テスト全般について熱い議論が繰り広げられています。

【これまでの成果】

以下は主な外部活動の一覧です

実施日	内容
2010 年 10 月 18 日	JJUG 様主催 Cross Community Conference 2010 Fall「Android とテスト」(宮田友美)
2011 年 1 月 9 日	日本 Android の会主催「Android Meets Testing (low)」(宮田友美)
2011 年 1 月 25 ~ 26 日	ASTER 様主催 JaSST'11 LT「Android テスト部紹介」(mike_neck さん)

【今後の目標】

最終的な目標は, Android 開発におけるテストドリブンな開発手法の構築です。直近の目標は jUnit による単体テストの記述と, Jenkins による継続的インテグレーションの実現となります。Jenkins によって, Android アプリのコンパイル, テスト, ビルド, 署名, apk の公開等が行えることを目標としています。現在 Twitter クライアントを作成し, そのアプリに対するテストコードを記述しています。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

2010 年 9 月にできたばかりで, まだまだこれからの部ですが, 興味をお持ちの方は以下のメーリングリストにぜひご参加ください。

<https://groups.google.com/group/android-test-club?hl=ja>

テスト部サイトは以下になります。

<https://sites.google.com/site/androidtestclub/>



Java 読書会 BOF

【主たる開催地域】神奈川県 【主催者】高橋 徹 【連絡先】torutk@gmail.com

【勉強会の目的／背景】

Java 読書会 BOF では主な活動として、有志が集まってプログラミング言語 Java をテーマに読書会を開催しています。そこでは、皆の興味のある専門性の高い技術書を題材に、その内容を深く理解し自分の技術としていくことを目的としています。

ソフトウェア開発の現場で Java が使われるようになってから 10 年以上になりますが、Java 技術の習得に壁を感じている人は少なくないのではないのでしょうか。特に自分の身の回りに気軽に相談できる熟練した Java 技術者がいない場合に、独学だけで Java 技術を習得することは簡単ではありません。Java に関する専門書や Web 上の情報は豊富にあり、情報の入手だけなら容易ですが、それらを読み解いて自分の知識とするには相応の基礎と努力が必要とされます。特に名著・良書といわれる技術的価値の高い本ほど、その傾向が強くなります。

【勉強会の定期的活動】

毎月 1 回、主に第 3 土曜日 (10:00 ~ 17:00) に公共の会議室などを利用して読書会を開催しています。Java に関する技術書を 1 冊選び、数回かけて最初から最後まで読み進めます。各回では最初に議事録を取る書記を決め、その回で議論した項目を簡単にメモしてもらいます。そして参加者が順番に朗読していきます。朗読した内容について疑問や意見があればその場で自由に発言し議論します。初心者からさまざまな分野の実務経験豊富な参加者による活発な議論こそが読書会の醍醐味の 1 つです。そこで出る斬新な意見に驚かされることがしばしばです。これは一人で漫然と読んでいるだけでは得られないものです。

読書会の中だけでなく、昼食時や読書会終了後の 2 次会という名の飲み会でも技術談義に花を咲かせています。

Java 読書会 BOF の運営は、(財) インターネット協会 Java 研究会の下での BOF として活動しており、会場費等の支援を得ています。議事録の配布ほか情報交換を Java 読書会 BOF メーリングリスト上で行うほか、開催

の案内、議事録、活動内容、メーリングリストの過去ログを Web で公開しています。

【これまでの成果】

Java 読書会は 12 年間を経て、開催回数は 140 回を超え、読んだ書籍は 20 冊にのぼりました。数ある読書会の中には著者・訳者の方の参加もありました。最近 5 年間で読んだ書籍は以下のとおりです。

The Art of Multiprocessor Programming
Scala スケーラブルプログラミング
Filthy Rich Clients
Effective Java 第 2 版
Java ネットワークプログラミングの真髄
Java 言語仕様第 3 版
Java 並行処理プログラミング
オブジェクト指向のこころ

【今後の目標】

これからも Java 技術を継続して学習できる場として活動を続けていきます。さらに 2009 年から毎年 1 回合宿イベントを開催しています。

このほかに Java 以外の技術についての読書会を行うことも検討しています。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

Java 読書会 BOF に興味がありましたら、ぜひ以下の Web サイトをご覧ください。

<http://www.javareading.com/bof/>

優れた専門技術書籍を独力で読みこなすことは困難を伴いますが、何人かで一緒に読むことでその敷居を大きく下げることができます。また、遠隔地の方も、気になる本の内容についてメーリングリスト上での議論を行うことで得るものがあるかと思います。ぜひ、一緒に参加して、技術に磨きをかけていきませんか？

神奈川県



【論理】

コンピュータビジョン勉強会@関東

【主たる開催地域】神奈川県 【主催者】慶應義塾大学工学部情報工学科斎藤英雄研究室 共同研究員 皆川卓也(@takmin)
【連絡先】 cvim_tutorial@googlegroups.com

【勉強会の目的／背景】

「コンピュータビジョン」(以下, CV) という研究分野で使用されている各種手法を「コンピュータビジョン最先端ガイド」という本を元に勉強していく会です。この本は情報処理学会の Computer Vision and Image Media (CVIM) 研究会のチュートリアルをまとめたもので、最近の研究で使用されるホットな手法を概観するのに最適な教科書となっています。

元々は、Twitter 上で「CV の国際会議の論文を読む勉強会が欲しい」という話題で盛り上がったことが勉強会開催のきっかけになりました。ただし国際会議の論文となるとやや敷居が高く、そのため参加者があまり集まらないのではないかと懸念したため、まずは参加者を多く集めようということで今の形になりました。その際私が当時在籍していた慶應義塾大学大学院理工学研究科博士課程の指導教員である斎藤英雄教授（この本の編者の一人）にご相談させていただいたところ、研究室としてご協力いただけることになり、会場として慶應義塾大学工学部のキャンパスを使わせていただけることになりました。

勉強会の進め方は、初期メンバが @naoya_t さん主催の「機械学習とパターン認識 (PRML)」読書会という勉強会で知り合ったということもあり、この読書会のやり方を踏襲しています。まず毎回課題範囲の中で発表者を募り、その発表者が担当分を発表します。ただし、会の趣旨は「皆で分からないところを勉強しよう」なので、発表者は担当範囲をすべて理解する必要はなく、分からないところはその場で参加者と話し合うことを想定しています。そのためたとえ発表者でなくても、参加者は事前に予習をしてもらうことが必須です。

勉強会の連絡は、主に Google Groups と atnd を使用しており、また Google Groups のサービス変更に伴い、ファイルの共有を Google Document で行っています。

現在では関東だけでなく、大阪、名古屋でも同様の目的を持った「関西 CV・PRML 勉強会」と「名古屋 CV・PRML 勉強会」というのが、それぞれ @yasunori1978 さんと @miyabiarts さん主催で開催されています。

【勉強会の定期的活動】

勉強会は慶應義塾大学矢上キャンパス（横浜）にてだ

いたい月に 1 回、1 章ずつ読み進める形で開催しています。それぞれの章が独立しているため、途中参加の敷居がほとんどありません。発表者は 1 回につきだいたい 3 ~ 5 人程度で、斎藤研の学生など CV を学んでいる学生や、実際に業務で研究開発をしている社会人、さらにはアプリ開発に興味があるハッカーまで、さまざまな人が約 30 名程度参加しています。勉強会の様子は毎回 Ustream で流しています。

【これまでの成果】

2010 年の 4 月から勉強会を開始し、2011 年 3 月で第 10 回を迎えます。お陰さまでさまざまな人に本勉強会を応援いただいております。2010 年の 10 月、11 月の「物体認識のための画像局所特徴量」の回では、執筆者の先生方にもご参加いただき、大変有意義な時間を過ごすことができました。また、何よりも意識の高いさまざまな分野の参加者と交流できることが大きなメリットの 1 つだと思えます。

【今後の目標】

今後は「コンピュータビジョン最先端ガイド」以外のさまざまなテーマ、たとえば OpenCV というライブラリについてや CVPR/ICCV などの国際会議論文の輪講、またハッカソンなどにも枠を広げたいと考えています。

また 7 月 19 日に「画像の認識・理解シンポジウム (MIRU) 2011」という学会の会場 (金沢) にて、各地の CV 勉強会との合同勉強会を開催することが決定しました。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

「皆で分からないところを勉強しよう」という会なので、予習した内容が理解できないまま参加するのは何の問題もありません。ただし参加する以上は、積極的に疑問点を解消しようという姿勢で臨んでください。また自分が発表者となることで理解が深まるので、ぜひ怖れずに一度は発表に挑戦してもらいたいと思います。

本勉強会に参加する方法は、以下の URL をご覧ください。この項で少し触れた PRML 読書会や関西、名古屋での CV・PRML 勉強会、7 月の全国合同勉強会へのリンクも張っております。

コンピュータビジョン勉強会@関東
<http://sites.google.com/site/cvsaisentan/>



HTML5-FIT

【主たる開催地域】福井県 【主催者】(株)チェンジビジョン 伊藤 祥 【連絡先】@shoito/sho.ito@air-life.net

【勉強会の目的／背景】

勉強会の主要テーマである HTML5 は、W3C と WHATWG で仕様策定中の HTML の次バージョンです。これまでの HTML と違い、周辺技術仕様を含むと、Web をドキュメントプラットフォームからアプリケーションプラットフォームへとシフトさせる大きな変化となります。HTML5 は周辺技術仕様と合わせて、次世代 Web 標準技術として捉えられています。

勉強会の目的は、北陸地方で HTML5 などの次世代 Web 標準技術に関する情報共有をすること、発表の場を設けることです。勉強会発足以前、東京には html5-developers-jp、福岡には HTML5+α @福岡 という HTML5 を学ぶための場があり、活発に勉強会が開催されていました。そんな中、北陸地方でも HTML5 などの次世代 Web 標準技術を学べる場、話せる場が欲しいという思いから HTML5-FIT を作りました。北陸地方の技術者には東京、大阪、京都まで勉強会に参加しに行くくらいにモチベーションが高い方が多いので、きっと参加者は集まってくれるという思いがありました。

【勉強会の定期的活動】

開催は不定期ですが、これまでは隔月程度のペースで行っています。会場は特定の場所を決めていませんが、これまでは(株)jig.jp、(株)サーフボードに会議室を提供していただいています。勉強会のテーマは各回ごとに決めており、これまでは「Google Hackathon for Chrome Extensions」「HTML5Rocks でロックな写経会」「HTML5/CSS3 などを利用した自作ソフトウェアのデモ会」「HTML5 など次世代 Web 技術に関するセミナー」などを開催してきました。勉強会終了後は懇親会を開催し、勉強会中だけでは話きれない技術談義を繰り広げています。

【これまでの成果】

参加者の中には、セミナー形式で学ぶだけではなく、実際にソフトウェアを開発し、公開まで行ったメンバもいます。また、他勉強会から講演依頼を受け、勉強会で得た Web 技術に関する講演を行うなどの活動も行ってきました。

以下は参加者が公開しているソフトウェアの一例です。

1. Web サービスとして公開
twistmap (<http://bugsrock.com/twistmap/>)
2. Google Chrome 拡張機能ギャラリーで公開
Scouter (<http://goo.gl/rcfZ1>)
3. オープンソースとして公開
as3webstorage
(<http://code.google.com/p/as3webstorage/>)
as3geolocation
(<http://code.google.com/p/as3geolocation/>)

【今後の目標】

各自が勉強会で学んだ知識を活かし、ソフトウェアを開発／公開していき、他の技術者の役に立てればと考えています。イベントとしては昨年、京都 GTUG、北陸エンジニアグループと連携して Google Hackathon for Chrome Extensions を開催できたので、今年は勉強会で学んだ Web 技術をフルに活かせる HTML5 Hackathon を開催したいと考えています。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

勉強会に参加を希望の方は、下記の URL にアクセスし、コミュニティの Google グループにご参加ください。
<http://group.google.com/html5-fit>

勉強会の企画／案内を Google グループ内のディスカッションを通して共有いたします。北陸地方に住んでいても、HTML5 など次世代 Web 標準技術について勉強／情報共有をしたいという方、本勉強会を通じて一緒に学んでいきませんか？



長野ソフトウェア技術者グループ (NSEG)

【主たる開催地域】長野県 【発起人】大日向大地, 小林思無邪, 岡本 豊 【連絡先】GoogleGroup : n_seg

【NSEG 概要】

長野ソフトウェア技術者グループ (NSEG - Nagano Software Engineer Group) は、長野を拠点とする IT 系技術者の勉強会コミュニティです。2010 年の 3 月に始まった若いコミュニティで、月 1 回の 세미나・発表会形式の勉強会に加え、不定期で開発オフなどを実施してきています。

10 代の学生から 60 歳過ぎまで広い年代層の参加があります。また、職業別でも技術者や学生のほかに、商工会やメディア、デザイナー関係など IT を使う側の方々も参加しており、技術者だけに閉じないコミュニティを形成しています。

【設立背景】

元々長野には IT 系特化の草の根的な勉強会が不在でした。とはいえ、何もなかったというわけではなく、Web デザイナーのコミュニティ「id=Nagano」や、クリエイター向けトークイベント「PechaKuchaNight NAGANO」があり、技術者向けのコミュニティも作ることができる素地がありました。

2010 年 2 月に「第 0 回」と称し、本稿を執筆している発起人 3 人で長野にいる IT 系の人々を集めて新コミュニティのコンセプト会議¹⁾を実施し、「長野ソフトウェア技術者グループ」がスタートしました。

【運営スタイル】

NSEG の運営は、特定の人に負荷がかからないよう開催ごとに主催者が異なります。これは他のコミュニティ (1000speakers, 高専カンファレンスなど) の運営における経験に影響を受けています。この主催者は、勉強会当日に以降の開催日と合わせて決めています。

勉強会の参加者数は 10 ～ 40 人程度のため、和気藹々としています。発足当時は気軽に参加してもらおうと LT (ライトニングトーク) が大半でしたが、最近はテーマに沿った 10 ～ 30 分の発表が多いです。内容は、Web 関連、スクリプト言語、開発環境、セキュリティといった話から、開発者の心構えや昔話、果ては女子高校生の掛け合い話、といったものまで多岐に渡ります。勉強会の様子は Ustream で配信し、遠隔から参加できるようにしています。

また、今後は勉強会だけでなく非 IT 系コミュニティと交流することを考えています。その先駆けとして、第 9 回勉強会で立ち上がったプロジェクトが進行中です。

■過去の主な発表

タイトル	話者	概要
Ruby の黒魔術	とみたまさひろさん	Ruby の上級プログラミング技法の紹介
Twitter からはみ出した「リアル」	町田秀企さん	Twitter から広がる可能性の話
8bit 時代のプログラミング事情を訪ねて	春原宏保さん	20 年前の開発の紹介
趣味が高じて世界記録達成	近藤 茂さん	自作 PC で円周率 5 兆桁を計算した話

【第 9 回勉強会～「あなたの面倒くさい」をお持ちください】

2010 年 11 月に行った第 9 回勉強会は、それまでの 세미나形式とは違う形式にしました。きっかけは、第 7 回勉強会の参加者の発言です。「NSEG でいつも使う会場の予約状況一覧表が見にくいから、スクレイピングして整形するプログラムを作ってみた」と一覧表を見せてくれました。この例では、「面倒くさいと思った人」と「技術者」が同一の人でした。技術者以外の人の「面倒くさい」と「技術者」をマッチングする場を作りたいと考え、第 9 回勉強会を企画しました。

各所に声をかけたところ、技術者だけでなくアーティスト・デザイナー・公務員・NPO 関係者・教育関係者が参加してくれました。前半は参加者の「面倒くさい」を出し合い、後半は自分が共感したものに集まり、5 つのプロジェクトチームを作りました。

チームのメンバは各々自分の提供できるものを出し合うことになりました。たとえば作ったプログラムを関係機関に導入してもらうために交渉する役、など。「面倒くさい」を出した人はできあがったものを評価する役目になります。「技術を勉強しあうコミュニティ」が方向性を持った今、どんな影響力を持つていくのか楽しみです。

【まとめ】

長野の IT 勉強会コミュニティとして NSEG を紹介しました。名称に「長野」が入っていますが、長野以外の地域の方の参加も歓迎です。NSEG の今後の開催情報については、<http://nseg.jp/> をご覧ください。Twitter @nseg_jp でも情報を発信しています。

参考資料

- 1) 長野ソフトウェア技術者グループ (NSEG) コンセプト会議 不完全議事録—酒と蕎麦と IT と <http://d.hatena.ne.jp/suno88/20100211>



DSTokai

【主たる開催地域】愛知県 【主催者】terurou (@terurou) 【連絡先】dstokai@googlegroups.com/terurou@gmail.com

【勉強会の目的／背景】

DSTokai は東海地方のコミュニティ活動の活性化を目的としたメタコミュニティです。

「勉強会に参加してみたいけど、いつ・どこで・どんな勉強会が開催されるのか分からないし、それをどうやって調べたらいいのかも分からない」「勉強会を開催してみたいけど、どこに告知したらいいのか分からない」と感じたことのある方は多いのではないのでしょうか？特に地方在住の方であれば、なおのこと感じる人が多いのではないかと思います。

地方(少なくとも名古屋)は東京と比べて人や情報が少なく、「情報が拡散しないから人が集まらない」「人が集まらないから情報が拡散しない」といった悪循環が起こりがちです。「だったら地方に根付いた情報共有の場を用意すれば良いのでは？」と考えたことが DSTokai を設立したキッカケです。

【勉強会の定期的活動とこれまでの成果】

現在は主に以下のような活動をしています。

- 東海地方で開催される IT 系勉強会情報の告知・共有
東海地方で開催される勉強会・イベントの開催情報を Google Group や Google Calendar で共有しています。
- クロスコミュニティイベントの企画
NGK (Nagoya Godo Konshinkai, 名古屋 合同 懇親会) と称したクロスコミュニティイベントとして 2009 年からお花見・忘年会を定期開催してきています。2010 年末に開催した NGK 忘年会 2010 には以下の 27 団体・約 90 名もの参加者が集まりました。このイ

ベントの動画は UStream (<http://www.ustream.tv/recorded/11239442>) で公開しています。

• 複数コミュニティへの連絡窓口

OSC 名古屋・名古屋 Ruby 会議・NGK などの大規模イベントの開催前には、イベントの告知だけではなく、スピーカー・運営スタッフの募集、開催企画の公募、協賛コミュニティの呼びかけなども行われています。

【今後の目標】

DSTokai は『メタコミュニティ』である以上、今後もコミュニティを継続していくことが必須です。また今後は、東海地方の素晴らしい勉強会・エンジニアを全国に広めるような活動ができたらいいなと思っています。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

DSTokai は基本的にインターネット上で活動しているコミュニティです。ご興味のある方は Google Group (<http://go.dstokai.info/group>) にご登録ください。また、Google Calendar (<http://go.dstokai.info/calendar>) で勉強会日程を共有していますので、こちらもご覧いただければ幸いです。

もしかすると、「登録したら何か面倒なことをしないといけないじゃ？」と心配する方もいらっしゃるかもしれませんが、DSTokai は登録後に特に何もせず、流れてくる情報を眺めているでも大丈夫です。DSTokai は情報共有を目的として設立したメタコミュニティですので、むしろ情報を眺めてくれる人が増えることを望んでいます。

- DSTokai
- 大規模分散技術勉強会 in 名古屋
- WordBench 名古屋
- OpenStreetMap 東海
- Usagi Project
- Ruby 東海
- 多治見 IT 勉強会
- わんくま同盟
- Nagoya.pm
- Boost. 勉強会 名古屋
- プログラミング生放送勉強会@名古屋
- ocaml-nagoya
- Git と GitHub を体験しながら身につける勉強会
- TEF 東海

- FLOSS 桜山
- つ部 (Android 名古屋 つくる部)
- concrete5 Japan 名古屋ユーザーグループ
- XOOPS Cube 東海
- CSNagoya
- 名古屋 Scala 勉強会
- Python 東海
- CakePHP 東海
- 名古屋アジャイル勉強会
- 名古屋 *BSD ユーザグループ
- 名古屋 CV・PRML 勉強会
- ProofCafe
- 浜松 IT 技術者交流会
(順不同)



FLOSS 桜山勉強会

【主たる開催地域】愛知県名古屋市 【主催者】河合勝彦 (Katz Kawai) 【連絡先】@flosss

【勉強会の目的／背景】

本勉強会が始動したのは、2007年5月、すでに地域コミュニティを中心とするLinuxブームが一段落していた頃です。その一方で、営利企業や各種団体による、有料のOSS（オープンソースソフトウェア）セミナーなどが盛んに開催されていました。

ただし、名古屋地域開催のOSSセミナーといっても、首都圏の先進的な企業や有名人を招いた、いわば一方通行な講演会がほとんどです。そうしたセミナーの意義を否定するつもりはありませんが、地域の自律的なOSS活動を促進する機会の場合としては、いまひとつ物足りないというのが正直なところでした。そこで、むしろ名古屋地域の「人」と「技術」を中心とした勉強会を始めようと、我々のFLOSS桜山勉強会が誕生しました。

FLOSS桜山勉強会発足時のコンセプトは次の通りです。①仕事帰りに気軽にFLOSS、②初心に帰ってわいわいがやがや、③プラットフォームは何でもOK、④地域の講師・発表者、⑤1つの団体というよりも「集いの場」。

その名称に、FLOSS (Free/Libre Opensource Software) という言葉を含むように、本勉強会は、フリー・オープンソースソフトウェアを題材とするのが原則です。しかしながら、誰もが強制されることなく自由に参加し、自分が話したいテーマを自由に話す、ということを経営のルールとしているので、必ずしも話題がOSSに限定されることはありません。オープンソースは、開発の手法ですが、本勉強会においては、むしろ参加者のモチベーションを高める、参加誘引のメカニズムとして働いています。

【勉強会の定期的活動】

2007年5月から2010年1月現在までに、月例の勉強会を計47回（共同開催を含む）行っています。毎回の参加人数は約20～30人、人気があるテーマの際には、50人超が集まったこともあります。

講師は一話完結で済むように扱うトピックを絞り、約20～40分間程度話します。過去の勉強会で扱ったテ

ーマとしては、各種CMSおよびプラグイン開発の話題、各種Webフレームワークの話題、IPv6の話題、FLOSSの経済論など、非常に多岐にわたっています。

【これまでの成果】

本勉強会の最大の成果は、オープンソースというキーワードに何かを感じる人々が交流する場を名古屋において提供し、人と人との貴重なつながりを地域に生み出したということでしょうか。実際、本勉強会から生まれた、地元のOSSユーザグループもいくつか存在します。

また、本勉強会で知り合った仲間たちが、書籍を共著で数冊出版しています。そのなかの1冊、PHP逆引きレシピ¹⁾は、現在でも売上げ絶好調です。

さらに、2008～2010年のOSC Nagoya（オープンソースカンファレンス名古屋、東海地域最大のオープンソース関連イベント）においては、多くの勉強会メンバがボランティアスタッフを務めました。このOSC Nagoyaの参加団体として、東海を中心に全国から30以上のコミュニティを集めることができたのも、コミュニティの形成や活動を促進するという、メタコミュニティとしてのFLOSS桜山勉強会の役割・特徴が活かされていると思います。また、OSC2009 Nagoyaにおける地元企画として、「勉強会大集合（東海地域の勉強会のパネルディスカッション）」を他地域に先んじて成功させました。

【今後の目標】

今後は、勉強会のノウハウと場を提供することを主眼とし、既存のメンバだけの殻に閉じこもることなく、積極的な新陳代謝を図っていきたくと考えています。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

ぜひ、FLOSS桜山公式Webサイト (<http://www.flosss.info/>) をご覧ください。

参考文献

1) 鈴木憲治, 安藤建一, 山田直明, 八木照朗, 山本義之, 河合勝彦: PHP逆引きレシピ, 翔泳社, 東京(2009).



OCaml-Nagoya

【主たる開催地域】 愛知県 【主催者】 (有) IT プランニング 小笠原啓, 今井敬吾 【連絡先】 keigo.imai@gmail.com

【勉強会の目的／背景】

Objective Caml (OCaml) を題材として、プログラミング言語の一種である関数型言語に関する理論や応用について発表・議論することを目的としています。

近年、関数型言語は産業界でも注目を浴びています。たとえば、Microsoft は関数型言語の一種である F# を Visual Studio に導入しました。F# は OCaml を基に作られた言語です。Scala は関数型言語の特徴を多く備えたプログラミング言語で、Twitter など Web サービスの実装で利用されています。関数型言語は並列コンピューティングとの親和性もあり、その考え方は Google の MapReduce のアーキテクチャにも応用されています。

特に、静的に型付けされた言語である OCaml, F#, Haskell, Standard ML などのポイントは、型システムを中心として信頼性と扱いやすさを両立していることです。こと型によるプログラムの信頼性向上という側面では、これらに匹敵するプログラミング言語はほかにありません。さらに、関数型言語には、学界における最新のプログラミング理論の成果がいち早く導入されます。OCaml, Haskell, Standard ML, Scheme などの関数型言語には、新しいプログラミングパラダイムや、型の機能が意欲的に取り入れられており、まさに日進月歩の世界です。

このように、関数型言語はソフトウェア技術者のみならずプログラミングが好きな人々にとって大変興味深いものです。しかしながら、理論的なトピックを非専門家が独力で学ぶには多くの努力が必要です。関数型言語に関する書籍はこの数年のあいだに多く出版されましたが、先進的なトピックが英語の論文で発表されるため、継続的な情報交換が不可欠です。OCaml-Nagoya は、名古屋地域におけるそうした人々が関数型言語の学習を通じてお互いに助け合い、また切磋琢磨するための勉強会としてスタートしました。

【勉強会の定期的活動】

2006 年 5 月より、名古屋大学の一室で 2 週間おきに勉強会を開催していました。近頃では回数は少なくなり

ましたが、名古屋・栄のインターネット接続可能なレストランを利用させていただいています。当初は、京都大学の五十嵐先生が公開しているインターネット上の OCaml 講義資料を輪読するという形式でした。メンバが OCaml に習熟するにつれ、次第に Scheme, Haskell に関する発表や、これらの言語で作ったソフトウェアの紹介にシフトしました。扱うトピックの性質上、数理論理学・圏論など、ソフトウェアサイエンスや数学に関連する論文を輪読することもあります。内容は時々 Web サイトで公開し、インターネットで関数型言語を学習する人の助けになるようにしています。

【これまでの成果】

書籍「入門 OCaml」を毎日コミュニケーションズより出版しました¹⁾。OCaml に関する情報を集めたサイト ocaml.jp にて、マニュアルの和訳²⁾のお手伝いをしています。2009 年・2010 年に開催された国内 OCaml Meeting のお手伝いをしています (2009 年 (東京): 約 90 人参加, 2010 年 (名古屋): 60 人参加)。主メンバは、関数型言語の近縁のトピックであるプログラム定理証明の勉強会「Proof Cafe (栄)」を立ち上げ、運営しています。

【今後の目標】

関数型言語の普及のため、定理証明などのより深いトピックや、応用面での展開について積極的に活動してゆきます。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

関数型言語について学んでみたい、議論したい方はぜひご参加ください。関数型言語でより多くのソフトウェアが開発されることを願っています。

次回予定日や参加方法、これまでの活動に関する詳細の一部などについては以下の URL をご覧ください。

<http://www.itpl.co.jp/ocaml-nagoya/index.php>

参考文献

- 1) OCaml-Nagoya : 入門 OCaml, 毎日コミュニケーションズ (2007).
- 2) The Objective Caml system release 3.12 (マニュアル日本語訳), <http://ocaml.jp/refman/>



Proof Cafe(栄)

【主たる開催地域】 愛知県 【主催者】 (有) IT プランニング 今井宜洋 【連絡先】 y.imai@ocaml.jp または @yoshihiro503

【勉強会の目的／背景】

ソフトウェアの重要性が増しつづけている昨今、プログラムの正しさや安全性を保証する方法が注目されてきています。特に定理証明器や証明支援器などの高度な検証ツールは、テストではできないような網羅的な検証が可能という理由から多くのプログラマが興味を示しています。

Proof Cafe (栄) では対話的な定理証明支援器である Coq (<http://coq.inria.fr/>) を実際に動かしながら、業務で使える技術を目指して勉強をしています。

【勉強会の定期的活動】

開催は毎月第 4 土曜日に月 1 回のペースで行っています。場所はインターネットが使えるカフェで、14:30 ~ 16:30 の混雑しない時間帯にコーヒーやお茶を飲みながらカジュアルなスタイルで行っています。

内容はプログラマ向けの Coq の解説書である Certified Programming with Dependent Type という本のドラフト (<http://adam.chlipala.net/cpdt/>) を丁寧に読んでいくということを軸に行っています。習熟度の異なる人でペアを組んでペアプログラミングして演習問題を解くということで実際に手を動かすということも行っています。また、通常の勉強会とは別に Coq を使っている研究者を東京から招いて講演会のようなイベントを行うといったこともしてきました。

【これまでの成果】

昨年は 3 つのイベントを行いました。

イベント名	日時	参加人数	URL
Coq 庵	2010 年 8 月 29 日	38 人	http://atnd.org/events/6022
名古屋ハッカソン	2010 年 10 月 9 日	22 人	http://atnd.org/events/7945
Coq Party	2010 年 11 月 27 日	15 人	http://atnd.org/events/9238

また、Coq の摘要範囲を広げるために独自拡張を行いました。これまで ProofCafe (栄) のメンバが作ったものは <http://coq.g.hatena.ne.jp/keyword/ProofCafe> で公開しています。

【今後の目標】

Coq のイベントを続けていくことと、今後は実際に動くものを実装してその正しさを証明していくことを積極的に行っていきたいと考えています。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

次回予定日や参加方法など本勉強会の最新の情報については以下の URL をご覧ください。

<http://coq.g.hatena.ne.jp/keyword/ProofCafe>

また問合せについては、下記メールアドレスか Twitter アカウントをお願いします。

Mail: y.imai@ocaml.jp, Twitter: [@yoshihiro503](https://twitter.com/yoshihiro503)

ProofCafe (栄) はプログラムの検証技術を学ぶことで、世の中のシステムの安全性や信頼性の向上に少しでも役に立ちたいと思っています。皆さんの参加を心から歓迎します。



Ruby/Rails 勉強会

【主たる開催地域】京都・大阪・神戸 【主催者】Ruby 関西 【連絡先】小波秀雄 (Ruby 関西代表, konami@kyoto-wu.ac.jp)

【Ruby/Rails 勉強会の始まり】

2004年10月、大阪で開催された関西オープンソース2004 (KOF2004) の場で、設立間もない日本Ruby会の紹介や最新の動向の報告があり、コミュニティのブームが設けられた、これをきっかけにして始まったのがRuby勉強会(後にRuby/Rails勉強会に改称)である。準備会合が2004年11月27日に京都女子大学で開かれたあと、同大学を主な会場とし、他に大阪、神戸などの学校や企業、公共施設を使って勉強会を開催してきた。現在(2011年1月中旬)までの時点で、Ruby/Rails勉強会は49回、それにRails単独の勉強会も加えて通算57回の勉強会が開かれている。また、KOFと共催して大阪南港のATCでも毎年11月に開催されている。

発足前、Rubyはまだ今日ほどメジャーなプログラミング言語ではなく、Perlを代替する言語として認識されていた程度である。一方、代表の小波が属する京都女子大学現代社会学部は、情報系のプログラミング教育にRubyを採用して、成果を挙げつつあった。Rubyプログラミングを学んだ学生の1人が大阪の企業でアルバイトをした際にRubyの名を挙げ、それに担当者が関心を持って自らRubyを使い始めたというエピソードもある。

2004年はデンマークのD. H. HanssonがRuby on Rails (RoR) を発表した年でもある。RoRはWebアプリケーションを構築するためのフレームワークで、Javaの数十倍の開発効率を謳い、瞬く間に世界に広がった。Ruby 関西は2005年春に早くも 세미나を開催した。その講師を務めたRuby 関西のスタッフは、日本のRoRの解説書の最初の著者でもあった。

【名物「初級者レッスン」】

勉強会ではRubyとRoRに関連するさまざまな技術の紹介や開発事例の報告が行われて、情報を共有する場となっている。また、第4回からスタートした「初級者レッスン」は、初心者より少し上のレベルを基準にしたプログラミングの講座である。京都女子大の学生をレスポンスパートナーにして、実習も交えての講習の形式をとっている。「お題」としては、文字列の処理、配列やハッシュテーブルといった有用なデータ構造のクラスの扱い、テスト駆動開発といったテーマが取り上げられている。女子大での開催ということも併せて、勉強会の名物プログラムである。

【Ruby/Rails 勉強会の今後】

勉強会の発足当時、Rubyに関する本やドキュメントはまだ十分ではなかった。現在Rubyは他の主要な言語と肩を並べるまでに成長し、わざわざ出さなくても必要な知識が得られる状況になった。しかし、2010年秋の関西オープンソースの会場で行った「出張版Ruby勉強会」は満員で、しかも初めてRubyに触れる人が大半であった。そこから考えると私たちの取り組みの意義はまだまだ大きい。新しい応用技術の出現、Ruby自体の発展も続くことを見越せば、当面は現在のペースを維持しながらの活動となるだろう。

【参加方法】

参加方法については、次のURLを参照してください。

- 勉強会 <http://jp.rubyist.net/?KansaiWorkshop>
- ML <http://jp.rubyist.net/?RubyKansai>
- SNS <http://jp.rubyist.net/sns/>



関西 IT 勉強宴会

【主たる開催地域】 大阪市内 【主催者】 オーナスアジア 佐野初夫 【連絡先】 @hatsanhat

【勉強会の目的／背景】

データ指向設計 (DOA) をベースとした業務システムデザインの意義を共有することを目的に始めた勉強会です。90年代後半にオープンシステムの波が来たとき、35～40歳の技術者は新しい技術をキャッチアップすることに必死でした。先輩から学んだ技術-業務設計・品質保証・運用設計等を後続に伝えるべき世代でありながら、その余裕がありませんでした。そのため、システム設計スキルに関して世代間ギャップが生じており、これを埋めることができればと望んでいます。

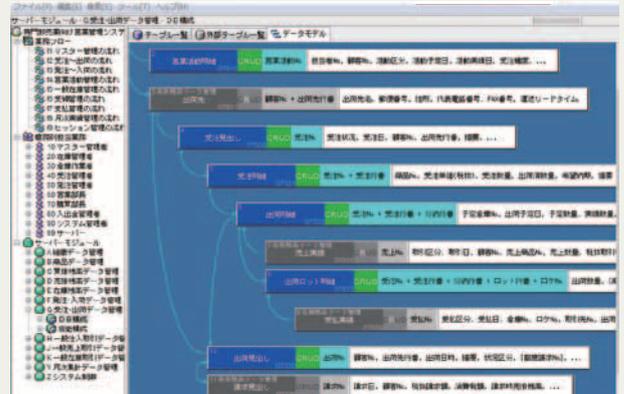
たとえば、DOAは米国由来の古い手法だと誤解されていませんか？ いえいえ、DOAは日本人が作った、企業の基幹システム向けに最適化された分析設計手法です。基幹業務等の複雑な事務処理を見直そうとする際に、こういった理論を知らないままでは正しいあり方にたどり着けません。データを記録するための帳簿組織を正しく設計し、個々の業務とその連携を正しく設計し、さらに膨大なデータ処理機能を正しく設計しなければならぬからです。

とはいえ、DOAは本を読んだだけではなかなか理解できません。この理論は関数従属性といった数学的枠組みを基礎として体系化されています。10人が設計すると10種類の違うものができる方法論が多い中、同じものができることを目的として、表記法なども（方言はありながらも）厳格に定まっています。それだけに、独学が難しいという難点があります。

東京ならデータ総研(株)のセミナーや佐藤正美氏のオープン講座など情報を得る手段はありますが、関西ではこれまでそのような機会がほとんどありませんでした。名著「上流工程入門」の著作者 渡辺幸三氏を中心として、計数管理パッケージ FusionPlace の杉本啓氏、オープンソース MakeGood の久保敦啓氏の3名がほぼ毎回参加してくれています。業務設計の面白さに触れてみませんか？

【勉強会の定期的活動】

新大阪の巨大プロジェクトが設置されているダイニングバーに協力いただき、乾杯のあと1時間ほどはプレゼンテーション時間です。発表者もテーマも自薦他薦ですのでバラバラです。発表はその後の宴会のネタとして話題になることもあれば別の話題で盛り上がることもあ



ります。

Google グループで情報交換を行っています。主催者にメールをいただければ登録しますので、タイミングが合えば参加表明してください。読むだけでも結構です。

【これまでの成果】

発表テーマの抜粋です。一部資料は Web ページにアップしています。

11月に関西オープンフォーラム 2010 (KOF2010) で発表しました。

開催月	タイトル	発表者
2010年8月	システム設計注意点-運用を考慮する GitHub の使い方	佐野初夫 久保敦啓
2010年11月	刮目せよ！モデリング技術がもたらすオープンソース業務システム (XeadDriver)	渡辺幸三
2010年12月	オープンソース POS -Openbravo- の概要	下山洋吉

【今後の目標】

2011年度の目標は「DSL (ドメイン固有言語) を知ろう」です。DOAは実はDSLに近いのではないかと参加者から問題提起があり、それを検証します。マーチンファウラー氏の新刊の日本語訳が出てから輪読会を行いたいと考えています。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

資料や過去の状況は次の場所をご覧ください。

<http://www.onas.asia/home/kwansaiit>

お問合せについては、下記 Twitter または問合せ用アドレスをご利用ください。

<http://twitter.com/@hatsanhat>

kwansaiitx@onas.asia



OpenOffice.org 講習会

【主たる開催地域】 島根県 【主催者】 しまね OSS 協議会 【連絡先】 info@shimane-oss.org

【勉強会の目的・背景】

しまね OSS 協議会は、オープンソースソフトウェアの普及を目的とし、島根県を中心に活動しております。これまで IT 技術者向けにさまざまなイベントを企画してきましたが、IT 技術者以外への働きかけが少なく、その方策を検討していたところ、OpenOffice.org の無料講習会を実施するという提案があり、これを開催することとなりました。

近年、OpenOffice.org の知名度はあがってきているものの、Microsoft Office との操作性の微妙な差異や互換性に問題があるという評判から、興味があっても使用しないという話をよく聞いております。しかし、各種文書の作成において OpenOffice.org をはじめから使い、OpenOffice.org で完結するような使用方法であれば互換性はもちろん、Microsoft Office との違いが問題となることはあまりありません。

そこで、まずは Microsoft Office との違いを意識することの少ない初心者を対象とし、OpenOffice.org の基本的な使い方を中心に講習会を行っております。

【勉強会の定期的活動】

偶数月の水曜日に、松江駅前にある松江テルサ別館 2 階のオープンソースラボで 18 時半から 20 時の講習会を 2 回行い、合計 3 時間で、アプリケーション別の講習を実施しています。主に実習を行いながら講習を進めており、参加者には OpenOffice.org をインストールしたノートパソコンの持参をお願いしていますが、希望者にはノートパソコンの貸し出しも行っています。

毎回 10 名前後の参加者で、講習会中に活発な質問があり、参加者相互で教え合ったりしながら、参加者主導型の講習会となっています。

【これまでの成果】

平成 23 年 1 月現在において、これまで 5 回実施し、活動が認知されつつあります。参加者のアンケート結果の中に、Microsoft Office を持っていない知人に



OpenOffice.org を紹介して講習会の内容をもとに使い方を説明したというものや、職場に OpenOffice.org が導入され、使い方を覚えるために参加したというものがあり、利用者の増加に寄与していると感じています。

【今後の目標】

初心者向けの入門編のみならず、中級者や上級者向けのカリキュラムを用意し、より実践的な内容にすることで、業務への導入を促していきたいと考えています。

【参加方法】

しまね OSS 協議会の Web サイト（下記 URL 参照）に開催の案内があるので、こちらを参照いただき、メールまたは FAX にて参加の申し込みをお願いいたします。

しまね OSS 協議会

<http://www.shimane-oss.org/openofficeorg-seminar/>

【メッセージ】

講習会の参加者が増えることで、利用者や導入事例が増え、それにより講習会の参加者が増えるような相乗効果を期待しています。



山陰 IPro 勉強会

【主たる開催地域】島根県 【主催者】ISOL 岩石 睦(ハンドル名:あみだく) 【連絡先】@amidaku

【勉強会の目的/背景】

山陰 IPro 勉強会 (SITW) は IT に携わる実務者のコミュニティを山陰地区においても定着させようと考え設立いたしました。

勉強会を思いついたきっかけは、東京や大阪など大都市では技術者を中心として、自発的に勉強会が行われており、技術者が中心(主役)となってコミュニティ活動を支えています。こういった活動が行われ、地域としての技術力が勝る都会では、さらに技術力を高めていくのだろうと思いました。

山陰では、こういったコミュニティ活動があまり定着しておらず、今後さらに差が開いていくのではないかと感じました。山陰でもこういった活動がきっかけとなって、日頃あまり陽の目を見ない技術者に発言していただき、技術者個々のモチベーションを高めるきっかけや、地域の技術力を高めるきっかけになればと思い勉強会を起案しました。

【勉強会の定期的活動】

有志による6名のスタッフ (SITW-WG) により、3カ月に1回を目処に定期開催を行っています。また、定期開催以外に講演者の当地への出張など開催の機会があった場合に「番外編」として、不定期な臨時開催を行っています。

昨年は、定期開催を3月、6月、11月に行い、番外編を7月、12月に行いました。

開催場所は基本的に、島根県松江市の JR 松江駅前にある、「松江オープンソーラボ」を使用しています。

開催の内容としては、話題の中心となるゲスト講演によるメインセッション(質疑含め90分程度)、地域の企業などの活動を紹介するサブセッション(質疑含め45分程度)、参加者によるちょっとした話題提供をするライトニングトークセッション(15分程度のセッションを3セッション)という構成が多いですが、メインセッションについては実際のシステムや機器に触れるハンズオン企画も行っており、開催内容に応じた時間構成としています。

山陰という土地柄か、時間構成も休憩時間を多めにとっていることから、和やかで和気藹々とした雰囲気で開催をしています。

【これまでの成果】

山陰地方においては、IT勉強会の活動が少なく、地域の情報技術産業の地域力を強める機会が少ないと感じています。そういう状況においては、当勉強会の存在意義はかなり重大と考えており、さまざまな企業の技術者の交流に役立っているものと感じています。

また、技術者だけでなくIT技術を取り巻くさまざまな役割の方々(ユーザ側の立場の方々や学生、教職員の方々など)のご参加もいただいております。地域としてのIT技術分野への地域力の向上に寄与しているものと感じております。

【今後の目標】

2011年3月5日に開催された第10回定期開催では、メインセッションで情報セキュリティにかかわる講演をいただき、それに基づいて参加者によりディスカッションを行いました。また、開催の内容を北海道札幌で行われる「北海道情報セキュリティ勉強会」にオンライン中継し、サテライト勉強会を具現化する取り組みもいたしました。次回の定期開催である「第11回山陰 IPro 勉強会」は2011年6月頃予定しています。第11回以降でも、さまざまなハンズオン企画やフリーディスカッション企画など、参加者皆での話し合いや、相談などの学びあう内容を考えております。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

本勉強会に関する情報は以下のURLの情報をご参照ください。

山陰 IPro 勉強会 Web サイト

<http://sitw.techtalk.jp/>

また、開催内容などのお知らせとして、下記メーリングリストを使用しています。

山陰 IPro 勉強会 メーリングリスト

<http://groups.google.co.jp/group/sitw2009>

メーリングリストにご参加いただくか、RSSリーダなどで情報を取得していただくと嬉しいです。



日本 Android の会 中国支部

【主たる開催地域】中国地方(現状は山口県, 広島県中心, 他地域は検討中)
 【主催者】日本 Android の会 運営委員 中国支部長 重村浩二 【連絡先】 @shige0501

【勉強会の目的/背景】

Android の拡大期であった 2009 年初頭, 山口県, 広島県ではまだ勉強会というものがそれほど活発には実施されておられませんでした。日本 Android の会 中国支部の勉強会を開始した当初の目的は, 主催者である私の地元, 山口県に IT の新しい技術を持ち込み, 広めたいという想いからでした。初回の勉強会では Android に関心を持たれていらした多数の方々にご参加いただき, 山口県, 広島県の隣県となる岡山県, 島根県のほか, 九州や四国方面の方からも参加いただき, Android への関心の高さを肌で感じる事ができました。

開始当初はまず Android とは何かについて学ぶ内容を中心としてきましたが, 現在では Android という名称も一般ユーザの層への普及の段階へと入っています。現在の活動の中心は, 中国地方の中での開発者の層をもっと押し上げ, 開発に興味を持つ方がさらに増えるように広めていくことです。開発者の層が広がることで, 中国地方発の素晴らしいアプリが増えてくれることを願っています。現在は毎回 20 ~ 30 名程度の方々に参加いただいております。Google グループを用いて数名のスタッフとともに勉強会の内容をより面白い内容にできるようにと検討し, 開催しています。

【勉強会の定期的活動】

中国支部の勉強会では, 10 代から 50 代という幅広い層の方々に参加いただいております。参加された方がひとつでも収穫を得られるように, 「初めての人が Android に興味を持ってもらうために」「アプリ開発技術」「組込み技術特集」など, 何らかのテーマを持たせながら活動しています。

具体的には, 開発者が開発したアプリの紹介であったり, 新しい技術についての講演, ハンズオンなどを通じての開発技術の習得や, 開発者同士が集まってアプリを 1 ~ 2 日で作り上げるようなハッカソンと呼ばれるイベントなどを中心としています。毎月 1 回の開催で, 大体 10 ~ 20 日前までには告知を行い, 参加を募るようにしています。

【これまでの成果】

中国支部の勉強会は, 本稿の執筆時点 (2011 年 1 月

現在) で 21 回目となります。延べ 20 回を超える勉強会の中で, 多くの技術者が知り合い, 技術について語らう場の提供をしていくことができたのではないかと思います。私は, 勉強会の醍醐味とは, 人と人が面と向かって語り合う場を提供することができることにあると思います。普段会うことができない Android 開発者がひとつの場に集まり, 講演を聞いたり, 一緒にアプリを作ったり, 懇親会で一緒に酒を酌み交わす場を提供し続けることができていることこそ, 代えがたい成果です。

【今後の目標】

これまでの活動を通じて, Android についての普及はほぼ完了したかと思いますが, まだまだ開発者の層は厚くしていく必要があります。今後の目標として, 初心者向けのアプリ開発勉強会やハッカソンなど, アプリ開発者の拡大を促す活動や, 少し趣を変えて Android 温泉という, Android 開発者同士で温泉に入りに行くようなイベントなども開催していきたいと考えています。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

本勉強会に参加する方法は, 以下の URL をご覧ください。本勉強会に入会していただくことで, 勉強会の開催に関する詳細をご確認いただけます。

日本 Android の会 Web サイト

<http://android-group.jp>

また, 中国支部用の ML として, 以下の ML が用意されておりますので, 合わせてご参加いただけたら幸いです。

日本 Android の会 中国支部(Google グループ)

<https://groups.google.com/group/jag-chugoku>

ご意見・お問合せにつきましては, 下記メールアドレスか Twitter アカウント宛てにお寄せください。

k-shigemura@android-group.jp

@shige0501

本勉強会を通じて, Android を通じた技術者同士のつながりを多く作っていただき, より素晴らしいアプリを開発するためのヒントを 1 つでも持ち帰っていただけたらと考えています。特に, これまで Android に触れたことのなかった技術者の方は, 本勉強会も緩いかたちで運営していますので, ぜひ一度足を運んでいただけたら幸いです。



オープンフォース

【主たる開催地域】 徳島県 【主催者】 河野悦昌 (かわの よしまさ) 【連絡先】 openforce@project2108.com または @nanbuwks

【勉強会の目的 / 背景】

オープン技術の力を使って世界を変革。OSS を実務に使用して自分を変えよう！ 仕事を変えよう！ 社会を変えよう！ 行く末は世界も変わるかも…！というのがオープンフォースの由来です。

【勉強会の定期的活動】

月1ペースでセミナー形式の勉強会を行っています。徳島での開催と他都道府県へ出張の場合があります。徳島ローカルの勉強会は土曜日の午後に行うことが多く、会場はその都度ごとに決定します。県外での活動は近畿圏や東京で行われるオープンソースカンファレンスに出張勉強会としての展示、講演を行っています。

【これまでの成果】

- 2009年夏の開始より、1年半ほど活動してきました。
1. セミナ形式の勉強会。隔月でテーマが Debian 勉強会とネットワーク勉強会とが入れ替わります。
 - 1-1. 徳島ローカルの勉強会では45分講演、ライトニングトーク、Ustream 中継を織り交ぜ、テーマにとらわれずに多岐に渡る内容を取り上げています (表-1)。徳島という場所では参加者が少なく、決まったメンバは数人です。その弱点を克服するために他の地域のIT勉強会とのコラボレーションを行っています。相手先、こちら側それぞれセミナーの半分ほどを Ustream で中継しあい、Twitter などで質疑応答を行います。
 - 1-2. 出張勉強会での講演 (表-2)。
 2. ライトニングトーク「たたかえ！オープンフォース」 (表-3)。外部の勉強会にてライフハックやエッジの効いた題材をエンタテインメント的にお話しています。
 3. IT系以外の活動も積極的に手がけています。2010年は数学勉強会や宮崎県支援焼肉パーティなどを行いました。また、徳島でサイエンスカフェを開催する企画も温めています。
 4. 何と！女子部が発足しました。コスプレやスイーツの開発などを行っています。

【今後の目標】

1. 企画段階のマネジメントの改善。オンラインの打合せがいつもぎりぎりになり、現在はスケジュール FIX するのが1週間前というのが常態化しています。これ

年月	内容	共催
2010年4月	Debian(非公式)勉強会	つくらく様とUstream中継
2010年5月	ネットワーク勉強会	Online.sg様とUstream中継
2010年6月	Debian(非公式)勉強会	関西Debian勉強会様とUstream中継 (未達)
2010年7月	Android勉強会	日本Android四国支部様と共催
2010年10月	オープンセミナー2010@徳島	オープンフォースが共催として参加
2010年11月	Debian(非公式)勉強会	多治見IT勉強会様とUstream中継
2010年12月	ネットワーク勉強会	X-lab(かいらぼ)様と共催

表-1 最近のセミナ形式の勉強会

年月	内容	出張先
2010年7月	玄箱を使ったUSBメモリセキュリティソリューション #2	OSC 2010 Kansai@Kyoto
2010年8月	Debianで作るGunblar対策 #2	OSC 2010 Nagoya
2010年9月	安い、はやい、うまい！オーダーリングシステム 2.0 ~PSP, Androidを端末活用~	OSC 2010 Tokyo/Fall

表-2 最近の出張勉強会

No.	タイトル	内容	初出
#1	Geek経理ソフトななこ ~オープンソースと7つの鉄~	経理業務をHackする提言	OSC 2009 Kochi
#3	ストリートコンピューティングを超えて	子育てでコンピューティングとしてヒドラスティルの提唱	OSC 2010 Kansai@Kobe
#4	核デロとたたかえ1の巻	放射線ビットエラーの評価	オープンセミナー2010岡山
#10	IT勉強会の向こう	IT勉強会のテクニックをサイエンスカフェ運営に	OSC 2010 Kansai@Kyoto
#13	クールギークスーツ!!	IT技術者の物理作業着としての自製の提唱	未発表
#14	地球滅亡と観入! ~Fly me to the moon~	月面上の水鏡的データ管理	忘年会2010

表-3 ライトニングトーク たたかえ！オープンフォースシリーズ (抜粋)

1. の改善を行います。
2. セキュリティ系の内容の充実。徳島情報セキュリティ勉強会「セキュリティうずまき」を企画中です。年数回の開催を目指します。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

最近「秘密結社オープンフォース」という名前前でプロデュースしています。なぜ？

秘密結社というのは謎めています。定款や構成員の内容を知ることには困難です。オープンフォースの組織はゆるくて、定款なんかあるのかわからないのよく分かりません。メンバも Twitter のアイコンしか覚えていなくて、実際に会っても「誰？」というのはしょっちゅうです。また、秘密結社といえば悪の組織です。悪の組織といえば破壊活動です。さて、今の日本に足りないものはダイナミックな変革です。イノベーションです。イノベーションというのは破壊活動にほかなりません。すごい技術を使ってイノベーションを目指すまるで秘密結社のようなゆるい勉強会。それがオープンフォースです。「秘密結社オープンフォース」を覗いてみたいという方は、ぜひ以下のアドレスをご覧ください。

<http://openforce.project2108.com>

openforce@project2108.com

主宰者の Twitter アカウント @nanbuwks でも、#openforce タグで情報を吸っています。



AppleKnight

【主たる開催地域】福岡県 【主催者】(株) Fusic 河野敬文 【連絡先】info@appleknight.com, @appleknight_tw

【勉強会の目的／背景】

私たち AppleKnight の目的は、iPhone/iPod Touch, iPad, mac アプリに興味がある、あるいは携わっているすべての方への情報交換の場となることです。

今や 10 万本を超えたとされる iPhone/iPad アプリ市場。Apple 社がこのマーケットを開放した当初は、開発の手軽さと世界に向けて簡単に発信できる魅力から、個人やベンチャー企業が率先してアプリの開発・公開を行ってきました。現在ではその市場に大手企業も続々と参入し、個人・ベンチャー企業・大企業が同じ土俵でアイデア・技術・シェアを競う場となっています。

その激しい競争の中で必要となるのは、より良い "Product" (アプリ) とは何か? を追求する姿勢です。具体的には技術・デザイン・マーケティングが高次元で融合された "Product" を目指す姿勢です。

AppleKnight は、プログラマー、デザイナー、マーケッター等、アプリビジネスに携わる多くの人たちがそれぞれの強みを持ちよりながら、より良い "Product" について真剣に考え、学び、議論し、時には協力して "Product" を作り上げる場になればと思います、立ち上げました。

【勉強会の定期的活動】

AppleKnight の開催は毎月 1 回のペースで行っています。

場所については、NPO 法人 高度 IT 人材アカデミー様が運営している AIP cafe を利用しており、19:30 ~ 21:00 の間で LT (ライトニングトーク) やプログラム講座、ワークショップ等を実施しています。

勉強会終了後には、そのまま AIP cafe 内で懇親会を行います。AIP cafe の下にあるおいしい餃子やピザを囲みながら、引き続き開発方法や注目アプリ等について楽しい話が続きます。

【これまでの成果】

コミュニティとして立ち上がってまだ日が浅いこともあり、主だった成果はないのですが、勉強会の定期的な開催や、「オープンソースカンファレンス 2010 Fukuoka」での発表等、活動の場を少しずつ広げている状況です。

またこれまでに活動してきた内容は、AppleKnight の Web サイトや、動画/スライド共有サービス「ZENPRE」上にてご覧いただくことが可能です。

AppleKnight :

<http://appleknight.com/>

ZENPRE :

[http://zenpre.net/search/search?key=t&val=](http://zenpre.net/search/search?key=t&val=AppleKnight)

AppleKnight

【今後の目標】

2011 年度は、もっと具体的に "Product" に焦点をあてて活動していきます。今年度全 12 回 (月 1 回) の活動については以下のように計画しています。

iPhone アプリ作成講座 (全 6 回) :

自分のアイデアをすぐにアプリとして具現化できるスキルを獲得できるよう目指します。

デザイン講座 (全 3 回) :

アプリデザインの基礎から、違いを生み出すプラス α の要素までを身に付けることを目指します。

アイデアワークショップ (全 3 回) :

アプリのアイデア発想法について、実践を通して学びます。

これまで通り全員参加型で進めていく予定です。また、HTML5 や Android 等を学ぶ別の勉強会との連携も企画しており、幅広くみんなで学べるよう活動を行っていきます。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

AppleKnight にご興味いただいた方は、ぜひともお気軽にご参加ください。info@appleknight.com までメールをいただければ、AppleKnight のメーリングリストへの登録招待メールを送付させていただきます。

また Twitter アカウント (@appleknight_tw) も開設していますので、気軽にご意見・お問合せください。

今後も急拡大していく iPhone/iPad アプリをはじめとしたスマートフォン市場において、さまざまな分野で学ぶことはたくさんあると思います。参加者同士で熱く語り合い、学び、協力し、そして世界に広がる大きな市場への準備を共にしていきましょう。

福岡県

【交流】

水曜どうしよう

【主たる開催地域】福岡県福岡市 【主催者】PocketBox LLP 迫田孝太 【連絡先】@cohtan

【勉強会の目的／背景】

全国にはさまざまな技術系の勉強会があり、それらの多くは技術を深く知るための勉強会や技術者同士の交流が主なものです。これらの勉強会はとてもエキサイティングで楽しいものです。ここ福岡でもさまざまな勉強会が発足し、日夜ディスカッションや発表会などが開催されています。

このように技術者、もしくは技術に興味がある人にとっては面白そうな勉強会はとても多いのですが、そうではない人と呼んでいる集まりというのはあまり見たことがありませんでした。仮にあっても異業種交流会とか、どちらかという技術者ではなくお偉いさんに向けたような集まりばかり。もっとカジュアルに技術者とそうでない人たちが交流できる場はないものかと思ひ、当コミュニティを立ち上げました。

また、定期的で開催したいという思いから毎回あまりコストをかけることなく実施できるよう、ワンコインで誰もが参加でき、軽食とドリンクを振る舞うことも重要なポイントにしています。気軽なワールドカフェといったところでしょうか。年齢、性別を問わず、フラットな空気感の中で開催されるよう、心がけています。

福岡には AIP 高度人材アカデミーという NPO 団体があり、そこが運営する AIP cafe という場があるのですが、普段から技術系の勉強会やディスカッションに幅広く利用されており、AIP が設立された目的である「最高位の IT 人材を戦略的に育成し、その人材や知の集約をもとに、IT 活用の高度化と地域の活性化を促進する」とも我々の活動はとても相性がよく、技術育成のみならず、他業種の方とのコラボレーションが生まれやすくなるよう、参加者全員が自発的に継続しようと楽しみながら活動できる場作りを目指しています。

【勉強会の定期的活動】

毎週水曜日夜 20 時から 23 時まで開催しています。毎回企画を誰かが持ってきて、その様子を Ustream で配信しています。これまで「iPhone4 活用自慢大会」「九州電子書籍勉強会の紹介」「Evernote 活用勉強会」「福岡のコーヒーシーンを語ろう（実際にバリスタの方をお呼びして）」「カイロプラクティックで歪み矯正」「Scala 勉強会発足告知」「ボルタリングが熱い」「映画のプロモーション告知」「Genba × IT 座談会（建築関係現場の方たちをお呼びして）」「スタートアップベンチャーのビジネスプラ

ンをいじる」などなど、さまざまなコミュニティの告知の場として、ディスカッションの場として、人と人とを繋げるハブとして、水曜どうしようは機能しています。

【これまでの成果】

IT 以外の話題も多いことから、さまざまな業界の人が来てくれるようになりました。互いに普段交流する機会のない人たちに出会えることで、刺激しあい、それをまた自分の活動に還元するというサイクルがうまく機能しているように感じています。また、各種イベント開催のときは告知の場として広く認知してもらえるようになりました。

【今後の目標】

みんなが気軽に交流できる場として、変に敷居をあげすぎないように運営していこうと思っています。Ustream 放送もやっていますが、実際に参加する方が面白いという方向性を大切にしたいと考えています。現在も毎回 20 名を超える人に参加いただいているので、これからもそれを維持できるように、環境を整えていきたいです。水曜どうしようが IT と多業種とトレンドを発信するカジュアルな場のような存在になればいいですね。他業種の人と話しているとよく思うのですが、話している本人にとっては当たり前、ほんの些細なことでも、実は案外それはその業界内だけでしか知られていないことだったりして、そういったお話を聞ける場というのはとても楽しいものです。そうやって、色んな人が水曜どうしように集まって、どんどん自発的に発信してくれると嬉しいですね。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

参加する方法は特にありません。毎週水曜日、福岡の AIPcafe で開催してますので、参加費の 500 円だけ持ってきていただければ大丈夫です。電源も Wi-Fi もありますので、PC などを持ち込んでいただいても問題ありません。初めていらした方はぜひカメラの前で自己紹介してください。ご協力よろしくお願ひします。

コミュニティサイトの URL

<http://sites.google.com/site/suidoaip/>

番組の情報は下記の Twitter アカウントでつぶやいています。ぜひフォローしてみてください。

@sdaip

皆様の参加お待ちしております。



セキュリティとんこつ - ばりかた勉強会

【主たる開催地域】福岡県 【主催者】セキュリティとんこつ(ばりかた勉強会事務局 花田智洋)
【連絡先】barikata@gmail.com

【勉強会の目的／背景】

ばりかた勉強会では、定期的を開催するセキュリティ勉強会を通じた地域のセキュリティ意識・スキルの向上を推進しています。当コミュニティは2006年12月に発足しました。

今では情報セキュリティ分野の勉強会は全国で開催されておりますが、発足当時は、東京、大阪・京都、広島と、限られた地域でしか開催されておりました。

また、情報セキュリティ勉強会で取り扱う内容が、使い方によっては悪用も可能なため、オンラインでの情報公開や勉強会の中継がほとんどなく、情報入手のためには、他地域で開催される勉強会へ福岡から参加せざるを得なかったという背景がありました。

そこで、福岡での情報セキュリティ勉強会のニーズがあると判断し、有志一同にて勉強会を開催することとなりました。

【勉強会の活動概要】

ばりかた勉強会は3カ月に1回程度のペースで、これまでに計19回の勉強会を開催(うち、1回は合同勉強会で開催)しました。平均的な参加者数は20～25名程度。多いときには40名集まることもあります。

勉強会は福岡市中央区で開催すること多く、会場側で厚意により主にAIP cafe, (株)BCC社を借用しております。以前に比べて情報技術にかかわる勉強会の数が増えてきているため、福岡でも勉強会会場をいかに確保するか、が課題となっております。

【開催形式】

当勉強会では情報セキュリティをメインテーマとして、講義形式、ライトニングトーク(以下、LT)、座談会などを交え、以下のような形式で行います。

- パターン1
 - 講義形式
 - LT
- パターン2
 - LT
 - 座談会

パターン1では、最新情報や技術の横展開を目的として、セキュリティ分野の第一人者に講演していただきま

す。これまでに、「無線LAN」、「Webアプリケーション」、「マルウェア(有害プログラム)解析」、「フォレンジック」など、さまざまな分野の講演をしていただきました。

パターン2では、全員参加型でセキュリティに関する日頃の悩み相談や情報共有が可能です。テーマは当日の会場で公募され、これまでに「職場のセキュリティポリシーを守れない人への対処法」、「迷惑メール対策」、「効率的な情報収集」などを取り扱いました。

パターン1,2ともに、参加者有志によるLTを実施しており、プレゼンテーションの場を提供しています。以前の勉強会で学んだことを応用して成果を発表する方から、自身が保有するiPhoneに穴を空けて侵入検知システムを構築した方までいます。1人あたりの発表時間は5～30分程度(時間は応相談)で、気軽に発表することができます。

講義形式、LT、座談会のいずれも参加者の質疑応答が活発に行われます。初めての参加者でも質問しやすくするよう、主催者側でも心がけております。

過去に開催した第13回勉強会では、長崎県の伊王島にて1泊2日のネットワークパケット解析合宿を行いました。合宿では実習を通じて実践的なスキルを身に付けられたことに加え、温泉、懇親会、夜のLT大会など、盛りだくさんの内容が好評でした。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

当勉強会は誰でも参加することができ、新規の参加者やセキュリティに自信のない方も大歓迎しております。これまでの参加者は、学生から社会人まで幅広く、最年少は中学生の参加者でした。参加者の業種、職種も多種多様で、セキュリティ業務に従事している方や、興味本位での参加など、自由なスタンスでの参加が可能です。

勉強会へ参加する方法は、以下に記載するWebサイトをご覧ください。勉強会に関するお問合せや要望事項はもちろん、講師やLTをしていただける方も、ばりかた勉強会事務局へお気軽にご連絡ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

セキュリティとんこつ-ばりかた勉強会
<http://d.hatena.ne.jp/barikata-sec/>
 ばりかた勉強会事務局:花田 智洋
 barikata@gmail.com



日本 Android の会 熊本支部

【主たる開催地域】熊本県 【主催者】てん 【連絡先】 jakuroid.info@gmail.com/@jagkumamoto

【勉強会の目的／背景】

アンドロイドは携帯電話に限らず広いデバイスを対象としたプラットフォームである。すでに日本 Android の会が存在し、技術の交換はメーリングリストを通じて盛んに行われていたが、エンドユーザや学生を巻き込んでフェイス・トゥ・フェイスで行う勉強会にはインターネットでは伝え切れない何かが存在する。熊本支部のモットーは「参加者が楽しむ」。そのほかに明確な運営方針は存在しない。

「1人でアプリケーションを開発し続けるモチベーションを維持するのは大変なので、大河ドラマの龍馬伝に出てくるような同じ志を持った勇士が集まってくれたら面白いのにと声を掛けてみた」とは、会の主催者“てん”の言葉。もちろん彼の照れ隠しであることは疑いようがないが、表面的に聞くとなんとも軟弱な背景である。

熊本という地方都市であっても、個人で技術やアイデア、意欲を持っている人は数多くいる。そのなかで、昨今のスマートフォンの台頭に伴い注目を集めていたアンドロイドの勉強会が発足したことは、熊本に蓄積された技術者のエネルギーを解放するための当然の流れだったように思う。

【勉強会の定期的活動】

現在は、さまざまな企画を試しながら、会の方向性を模索している段階である。これまでに「Hello World からやってみよう」「App Inventor やってみよう」「ISO3 タッチ & トライセミナー」などの勉強会を開催した。勉強会終了後は懇親会が開催され、時間内で話し足りなかったことや次回の企画などをざっくばらんに話し合っている。

勉強会以外に、中心的なメンバ10人程度が月に1度の定期的な運営会議（実際はだれでも参加OK）を行いながら勉強会などの企画を行っている。大学のキャンパス、公民館などを主な活動場所として使用している。

【これまでの成果】

会主催のイベントでは企業に所属するエンジニア、大学の教員や学生、エンドユーザが、利益に縛られない個人として意見を出し合うことができているため、これま

で熊本では難しかった技術者間のコミュニケーションを可能としている。また、日本 Android の会公式の名刺に貼れるシール作成を提案したところ、シールが作成された。

【今後の目標】

2011年3月12日の新幹線開通に合わせて、熊本支部で Android で当地アプリを作成するプロジェクトを進行中である。また、熊本支部のマスコットキャラクターを作成中であり、地域を活性化させるために行政やメディアとの協力を模索するなど、産官学をやんわりと絆ぐ役割を果たしていきたい。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

私たちは、会社／大学／自治体等が母体となっているわけではなく個人の集まりです。

教える側も教わる側も同じように百円ずつ出し合っ会場費を確保し運営しているのが今の実態です。個人同士の繋がりのできることはたくさんあります。各々がやりたいことを会で実現できますので、なるべくミーティングなどに参加して意見を発信し交流を深めてください。途中参加でも中心になってやることもできますし、サポートにまわることもできます。好きなスタイルで参加可能です。

参加したら、自分のやりたいことをやる、自分から楽しむ、自分にプラスになることをやる、など目的はさまざまあると思いますが、多くの人たちと一緒にやることにより相乗効果も得られると思います。

本勉強会に興味を湧いた方、以下のメーリングリストにぜひご参加ください。「Android って何だろう」な方、大歓迎です。

日本 Android の会 熊本支部 Google Group

<http://groups.google.com/group/android-group-japan-kumamoto>

日本 Android の会 熊本支部 Web ページ

<https://sites.google.com/site/jagkumamoto/>

問合せについては jakuroid.info@gmail.com へお願いします。

ハッシュタグ：#jagkumamoto



日本 Android の会 鹿児島支部

【主たる開催地域】鹿児島県 【主催者】日本 Android の会鹿児島支部長 野崎弘幸 【連絡先】@flatlabs

【勉強会の目的／背景】

日本 Android の会鹿児島支部は、その名のとおり、Android に興味を持つ鹿児島県内の開発者が集まったユーザコミュニティで、鹿児島における Android の普及および啓蒙、コミュニティの形成、エンジニアのスキル向上等を掲げて活動しています。2010年2月の発足当時は、まだまだ手探りの要素が大きく、「Android で何ができるの?」ということばかりが先行している状態でしたが、Android の盛り上がりとともに、徐々にいろいろな可能性についてのこと、やってみたことについて話すことが活発になってきていて、開発者にとって、有意義な場になっていることを実感しています。

【勉強会の定期的活動】

勉強会は、1カ月半に1回のペースで開催しており、参加するメンバのほとんどが、通常業務後の参加ということもあり、19:00～21:30の時間帯で開催しています。場所は、鹿児島市の施設である、ソフトプラザがごしまを利用させてもらっています。内容については、手を挙げた人が、新しく追加された機能ややってみたことを発表する。ということを行っています。Android は、同じ開発者でも、Web系や組み込み系などで、取り組みが違ったりするので、それぞれの取り組みを発表してもらうことで、たくさんの新たな発見があります。勉強会の後には、必ず懇親会を開催しており、ここでも深夜まで、熱い意見交換を行ったりしています。

また、その他の取り組みとして、Android の普及を目的に、一般の方向けに Android の活用講座を不定期に開催するようなことも行っています。

【これまでの成果】

やはり、この勉強会が、スキル向上の場となり、Android について、手探りの状態から、活発な意見を交わらせるようになったということが、これまでの大きな成果ではないかと思っています。

そのほか、ボランティアの取り組みによって、独自のキャラクタも作成しました。これは、これからイベント等をはじめ、さまざまな場で存在感を示すものとして期待しています。



【今後の目標】

2011年4月の九州新幹線全線開通に合わせて、勉強会に参加しているメンバで協力して、鹿児島を紹介するようなご当地アプリを作ろうと話しています。また、Android 開発を始めたばかりの方向けに開発入門の講習も定期的で開催するような取り組みも行っていきたいです。これに参加した方々が、Android の可能性を知って、だんだんとスキルを向上させて、また、意見交換をするメンバの1人となり、Android でつながる輪がどんどん広がっていくような流れができればいいなあ。と考えています。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

本勉強会に参加するには、下記 URL の「日本 Android の会鹿児島支部」の Google グループに登録してください。

<https://groups.google.com/group/android-group-japan-kagoshima>

また、お問合せに関しては、下記の Twitter アカウント、もしくはメールで、お願いします。

Twitter アカウント：@flatlabs

メール：flatlabs@gmail.com

本勉強会は、Android 技術のスキル向上や新たな発見の場になれば、という思いで、活動しています。また、あまり IT コミュニティの活動が活発とはいえない鹿児島で、コミュニティの文化を根付かすことのできるような活動をしていきたいとも思っています。



Java Küche

【主たる開催地域】沖縄県 【主催者】Java Küche 会長 平良知広 【連絡先】info@java-kuche.org

【勉強会の目的／背景】

Java Küche (ジャバクッチェ) は、Java の普及、Java 技術者の育成、また Java に限定しないプログラマにコミュニケーションの場を提供することを目的に、平成 18 年 7 月 21 日県内 IT 関連企業や研究機関などの有志によって設立されました。それ以来、設立の趣に沿って活動を重ね約 4 年が経過したところですが、技術スキルの向上や会社組織の枠を超えた技術者の交流の活性化に成果をあげています。

【勉強会の定期的活動】

設立から現在まで年 2 回のペースで定期的な勉強会と年 1 回の講演会を開催しています。勉強会の会場は主に琉球大学情報工学科の教室を借りています。15:00 ~ 18:00 の時間帯で行い、1 回 50 分ほどのセミナーがメインとなっています。最近では Lightning Talk 枠を設け、学生が発表者側で参加することも多くなってきました。また、年に一度の講演会では本土から著名なエンジニアを招いて、最新技術に関する講演を行っていただいています。勉強会の後は懇親会を、毎年夏に行われる講演会の後はバーベキューを企画しており、発表者や参加者が楽しく刺激しあえる場を提供しています。

【これまでの成果】

2010 年の主な外部活動としては 10 月に開催されたオープンソースカンファレンスにてコミュニティのブース出展と Android ハンズオンセミナーに参加しました。

【今後の目標】

本コミュニティが設立された 4 年前に比べて沖縄県の技術系勉強会は増えてきています。そういった他のコミュニティと合同で勉強会を開催するなど、よりいっそう盛り上げていきたいと考えています。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

参加資格は特に設けておらず、社会人から学生まで誰でも参加することができます。下記の URL にてメールアドレスを登録すると、新規イベントに関する情報を得ることができます。

<http://www.java-kuche.org/modules/eguide/reserv.php?op=register>

その他詳細な勉強会の情報については公式サイトをご覧ください。

<http://java-kuche.org/>

Java Küche はプログラマのためのコミュニティを目指しています。プログラミングに関する語らいの場にあなたも参加してみませんか。



日本 Android の会 沖縄支部

【主たる開催地域】 沖縄県うるま市, 那覇市 【主催者】 日本 Android の会 沖縄支部 【連絡先】 @yamanetoshi

【勉強会の目的／背景】

2009年10月にAndroidに興味を持つ有志数名が集ってkickoffされた勉強会です。当時はNTT docomoからHT-03Aという機種が発売されたばかりで、Android搭載デバイスの普及に先んじて立ち上がりました。

勉強会は、JAG（日本Androidの会）Webサイトの沖縄支部のページ (<http://goo.gl/AUFvV>) の記載にある通り、沖縄でのAndroidの普及および啓蒙や沖縄におけるAndroidコミュニティの形成を目的としています。

勉強会の実施にあたって具体的に意識していることとしては、学生や若い技術者を勉強会に巻き込んでいくことで、こうした動きが沖縄県の脆弱な産業構造に良い影響を与えることができれば、という大風呂敷を広げている次第です。

【勉強会の定期的活動】

うるま市および那覇市にて月1回の頻度で勉強会を実施しています。これまでの活動履歴はおおむね沖縄支部のwiki (<http://android.shuri.jp/>) に記録しています。

うるま市の勉強会では「Google Android アプリケーション開発入門」という書籍をeXtreme Readingという手法 (<http://goo.gl/ur67>) を用いて読み進めているところです。また、Eclipse、組込み、成果発表などのセッションもできるだけ盛り込むようにしています。

那覇市の勉強会は立ち上がったばかりで、方向性を見定めつつあるところですが、Androidの基本的な機能(描画、NW通信)に関するハンズオンセッションが実施/予定されています。

【これまでの成果】

春に実施されたABC (Android Bazaar & Conference) のライトニングトークセッションにおいて、勉強会に参加してくれている沖縄高専所属の若者が作成したコンテンツアプリを発信しています。

また、勉強会やMLにおいてアプリケーションで使用可能なヒープメモリの量を計測するアプリケーションを作って端末ごとに異なる容量についての情報交換を行った実績もあります。

プロダクトアウトなモノはいまだに出せる段階ではありませんが、Android Marketに作品を投入していく若い人が増えるよう、活動を継続していきたいと考えています。

また、プロダクトという意味での成果ではありませんが、年明け早々に沖縄の色々な勉強会に参加している若い方々がLT (ライトニングトーク) 大会を企画中との話を聞いています。こちらも定期的な情報発信の場として定着させていくことができれば、と考えているところです。

【今後の目標】

現在は初心者向けの読書会やハンズオンセッションが中心ですが、組込みやUIに関することもテーマに盛り込みつつ、プロダクトアウトにつながるようなハッカソンなどのイベントも実施していきたいと考えています。

【参加方法と私たちからのメッセージ】

勉強会の実施においては、atnd.orgにて参加申込みを受け付けており、詳細についてはJAGおよびJAG沖縄支部のMLにて案内しておりますので、本勉強会に参加されたい方は下記Google groupsに登録をお願いいたします。

JAGのGoogle groups

<https://groups.google.com/group/android-group-japan>

JAG 沖縄支部のGoogle groups

<https://groups.google.com/group/android-group-okinawa>

JAG 沖縄支部のwiki

<http://android.shuri.jp/>

この勉強会が地域活性化と沖縄から日本や世界にプロダクトを出力していく人材育成につながることを切望しつつ、今後も可能な限り勉強会を続けていこうと考えております。Androidに興味がある沖縄在住の方はぜひご参加ください。

米国

米国シリコンバレーにおける 勉強会事情

■ 関根 均 (Ricoh Americas Corporation) 田中秀樹 (国立情報学研究所)

【主たる開催地域】米国カリフォルニア州シリコンバレー

【米国シリコンバレーでの勉強会事情を紹介するにあたり】

有名な Google や Apple, Facebook, 古くは HP や Intel, Cisco などが創業の地として選んだシリコンバレーはハイテク起業の街です。230万人弱が住む地域で、人口150人に1人が会社を作るペースで新しい会社が起業します。2007～2008年の1年間では約17,000社が起業、7,000社が廃業したそうです^{☆1}。そんなシリコンバレーの起業家を縁の下で支えているのがボランティア主体のネットワーク活動、草の根イベントです。主に就業時間を避けた午後6時から、または朝食時間などにボランティアによって、技術者のスキルアップや起業家向け勉強会、情報交換会等々、さまざまなイベントが毎日数多く開催されています。主催するのは個人のグループが主ですが、有名な投資家グループや大学や業界組織が主催するものもあります。企業は Google や Microsoft, Intel, HP などの有名どころを始めスタートアップも多く参加しますが、スポンサーとしての立場で場所や簡単な食事の提供だけにとどまり、ほとんどの参加者は個人の立場で参加します。多くの場合、会場はスポンサー企業が提供してくれますので、就業後の Google や Microsoft, スタートアップ・ベンチャーのオフィスを訪問するチャンスでもあります。

参加目的は人それぞれ。新技術の習得から情報収集、起業仲間を探すためのネットワーク作り、自分のビジネスへ投資してくる人を探すため等々。シリコンバレーですから人種もいろいろですが、親同伴の小学生くらいの子供から学生、取りあえず技術系の会社に勤めていそうな方たち(ほとんどはこの人たち)、かなりお年を召したご老人まで老若男女いろいろです。先日のイベントでは70歳を超えて Google App Engine の勉強を始めた方と60歳で非IT系から転職を目指している方に挟まれてしまい、年齢を気にされない新しいチャレンジに深く感動しました。

多くのイベントの参加費は無料ですが、\$15から\$25くらいのももあります。ほとんどのイベントにはスポンサー企業がついており、会場やピザ、缶ジュース等の食事を提供してくれます。Giveaway と言って、参加者にその会社の製品や有料カンファレンスの招待券などをプレゼントしてくれることもあります。昨年の1年間で Samsung の Android 携帯を3台に Google Chrome

OS ノートブック, Google TV, \$350 のカンファレンス招待券などの収穫を得た強者もいます。

米国シリコンバレーに拠点を置く日本人にとってもまた、これらイベントは、きわめて重要な情報源になっています。人によっては、仕事で使う情報の多くをこれらイベントから仕入れるということもあるくらいです。

【シリコンバレーの草の根イベントあれこれ】

米国シリコンバレーでさまざまな草の根イベントが盛んに行われていることを初めて知ったのは、大きなイベントでの立ち話でした。「VC Taskforce (<http://www.vctaskforce.com/>)」という名前の取り組みで、「有料で行われる起業家のためのスキルアップ勉強会」です。たとえば、「ピッチ」または「エレベーターピッチ^{☆2}」と呼ばれる VC (ベンチャーキャピタル^{☆3})、エンジェル投資家^{☆4}へのプレゼンテーションスキルを磨くことができます。ピッチは、1分半程度という大変短い時間しか与えられません。効率よく自分のアイデア、プランを伝えるスキルは、ビジネスという枠だけではなく、研究発表などでも重要なスキルになるかもしれません。

また、Orrick (<http://www.orrick.com/>) という法律事務所が行っている無料のセミナーもあります。Orrick は、企業の法律、契約面でのお手伝いをするのがビジネスとなります。そのために起業家育成のための無料のセミナーを開催しているということになります。ここには、起業家だけではなく、特定の業界の知識を吸収し、ビジネス開発を行いたい企業の担当者なども参加しています。

少し技術者寄り草の根イベントになると SD Forum (<http://www.sdforum.org/>) があります。毎週5～6回程度、技術的なトピックのセミナーが開催されています。本稿執筆時の2011年1月では、Web2.0やクラウドのセミナーが開催されていました。朝8時から朝食を食べながらのセミナーもあります。

中小問わず米国企業が開催するイベントには、Webを使ったセミナーである「Webinar」も広く利用されていま

☆1 参照：On Off and Beyond：シリコンバレーの会社の新陳代謝。
<http://www.chikawatanabe.com/blog/2010/12>

☆2 エレベーターピッチ：エレベーターの中で投資家に会った起業家が短い時間で自分のビジネスプランを伝える例え。

☆3 VC (ベンチャーキャピタル)：ベンチャー企業に投資する投資会社。

☆4 エンジェル投資家：ベンチャー企業に投資する個人、投資額はVCよりも少なめで、より初期の段階のベンチャー企業に投資する。

す。少し草の根イベントとは趣向が異なりますが、手軽な分、利用する人も多いと言えるでしょう。

日本人が日本からシリコンバレーの草の根イベントを調べることは、実はとても簡単です。それは、Meetup.com (<http://www.meetup.com/>) という Web サイトがあるためです。この Meetup.com は、だれでも無料で閲覧できるサイトで、世界中の草の根イベントを見つけ出すことができます。このサイトはとても人気があるので、草の根イベントのことを Meet up と呼ぶこともあります。

最近 Meetup.com に掲載されていた面白い Meet up の 1 つは、世界最大の家電トレードショーである CES (<http://www.cesweb.org/>) をブレイクダウンして議論する Debrief on CES 2011 です。この Meet up は、CES ショーの最終日前日の 1 月 12 日にシリコンバレーにある北米最大の電話会社 AT & T 社の San Jose オフィスで開催されました。Debrief on CES 2011 に参加することで、シリコンバレー居住者は飛行機で 1 時間半ほどの距離にあるラスベガスの CES に直接参加せずとも多くのトピックを理解できました。

技術者に人気がある Meet up の 1 つに Silicon Valley Google Technology Users (<http://www.meetup.com/sv-gtug/>) があります。Google 社員を中心に組織された Meet up ですが、参加者はあくまでも個人として参加し、Google はスポンサー企業の 1 社として会場と食事を月に 1 回の Meet up に提供してくれています。毎月 300 人ほど集まる大きなイベントで、Google の最新技術の説明を始めシリコンバレーでホットな話題が常に選ばれ、それぞれのエキスパートがデモを交えながら説明してくれます。昨年は Android OS の最新版や HTML5, Chrome, Google TV, (今はなき) Wave 等の最新 Google 技術を正式発表直後に担当技術者が説明してくれました。Chrome OS ノートブック, Cr-48 が参加者全員に配られたのもこの Meet up です。シリコンバレーの Java プログラマの集まりでもある Silicon Valley Web JUG (<http://www.meetup.com/sv-web-jug/>) も大変人気があります。昨年末にはプログラミング言語 Java の生みの親として有名な James Gosling 氏を呼んで、参加者の質問に直接回答してもらうという Meet up が開かれました。Gosling 氏の現在の状況や好きなプログラミン言語、ソーシャル・ネットワーク、氏の Oracle 退社、Android に関する Google と Oracle 社の裁判等について、どれも大変興味深い話ばかりでした。ちなみに氏は Java を除くと Scala が好きだそうです。シリコンバレーの iOS/Android ソフトウェア開発者のユーザグループである、The Silicon Valley iOS Developers' Meet up (<http://www.meetup.com/sviphone/>) と Silicon Valley Android Developers Meet up (<http://www.android-android.net/>) も人気

あり、共に実際に開発を行っているアプリケーション・ベンダの CEO や開発者を呼んで、技術だけでなくビジネス上の成功例や苦労話を聞くことができます。Silicon Valley Android Developers Meet up には Samsung 等のデバイスベンダや Sprint 等の携帯電話会社も常に参加しており、常に最新の Android 携帯ビジネスの情報を開発者に提供してくれます。

このほかにも常に新しもの好きの多いシリコンバレーでは、クリーン技術やモバイル事業について話し合うビジネス的な Meet up から HTML5 や Nodo.js, 3D Vision & Kinect Hacking 等の技術ゲークが真っ先に飛びつきそうな Meet up が次々に立ち上げられています。Meetup.com で地域とキーワードで検索するとすぐに見つけられます。

イベントのほとんどは英語で行われますが、シリコンバレーで活躍する日本人たちが主催する日本語の草の根イベントも多くあります。

日本の勉強会よりも、シリコンバレーの草の根イベントは少しビジネス色が強いかもしれません。多くの VC やエンジェル投資家、起業家、ビジネス開発担当も参加しており、草の根イベントで知り合って「次(のビジネスについて)、ランチしながら話そうよ」ということが多々あります。逆に、ただ草の根イベントで出会ったとしても、お互いのビジネスに価値のある関係とならない限りは長続きはしない、という側面もあります。参加者の多くはプライベート時間を使って次のビジネスチャンスを探しているのです。VC や日米でビジネス開発を担当している方もいるかもしれませんので、これから起業をしたいという日本の方も、ぜひ、シリコンバレーの草の根イベントにも参加してみてください。Google 創業者のお二人も創業前後は積極的にこのようなイベントに参加して、当時のお二人にとっては不得手であったネットワーク作りに励んだそうです。当時、伝説的な個人投資家として知られる Paul Graham さんが毎月開催していたの起業家イベントに誰より早く来て最後まで残っていたのがお二人だったそうです。また就活の場でもあり、セミナーの前後に求人を行っている人と職を探している人がそれぞれを売り込む時間が与えられることもあります。

米国の草の根イベントで出会う人は、とにかく前向きでオープンな雰囲気があるのが特徴です。どこからビジネスが生まれるかわからない、しかし、その中から可能性を追い求める人たちは、常にそうである必要があるのかもしれない。

米国シリコンバレーにおける草の根イベントは、英語ができる人にもそうでない人にもオープンです。米国シリコンバレーに渡航される際に、一度チャレンジしてみるのはいかがでしょうか？